京城日報

二十五日夕刊
（朝刊二十六日附てヘ八頁）

○全交戰國加入勸誘
講和締結と獨逸代表者の主張

【倫敦來電】ブレストリトウスクよりの報に依れば講和締結交渉に於ける獨逸代表者は全交戰國の參加希望を力說せるを以て佛、英、伊、米に對し該談判に加入す可く勸誘するに決せり。露國過激派は非併合及び非賠償の主張を承認す可き形勢あるも各國民が自ら任意に自己の國政を司る權利に就きては未だ遽かに同意せざるが如し（倫敦電報）

○四千萬飢餓に瀕す

獨逸フォルエルツ氏は目下四千萬の人民が食糧缺乏の爲飢餓に瀕しつゝあることを發表せり（倫敦電報）

○停戰命令の可決

總統府會議に於て停戰命令を可決し近く發令の筈なり（北京特電）

□帝國議會召集
二十七日開院式擧行

第四十回帝國議會は二十五日を以て東京に召集され兩院の成立を告げたるを以て寺內首相より畏き邊りへ奏上二十七日開院式擧行さる可く二十六日官報を以て左の詔書公布せらるべし（東京特電）

詔書

朕帝國憲法第七條及ヒ議院法第五條ニ依リ十二月二十七日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス

御名御璽

大正六年十二月二十五日

各大臣副署

○李王世子補任

李王世子垠殿下は二十五日左の如く補任せられたり（東京特電）

任陸軍步兵少尉 李垠
補第二聯隊附

○院內役員

二十四日各派議員總會にて決定せる院內役員左の如し（東京特電）

政友會院內總務 元田肇▲岡崎邦輔▲床次竹二郎▲總務補佐 田中隆三▲山本悌二郎▲小久保喜七▲三土忠造▲院內幹事 磯部尚▲八田宗吉▲西村正則▲岩崎勳▲八木逸郎▲島田俊雄▲中野寅次郎▲吉原正隆

憲政會院內總務 藤澤幾之輔▲早速整爾▲下岡忠治▲院內幹事 關和知▲森田茂▲小泉又次郎▲小山松壽▲小池仁郎▲野村嘉六▲橫山勝太郎▲三木武吉▲田中萬逸

新政會常務幹事 上田彌兵衛▲平田健太郎▲林平四郎▲若尾璋八▲秋田清▲評議員 金澤仁作▲小鹽八郎右衛門▲秋田寅之助▲兒玉右二▲佃安之丞▲吉村鐵之助▲尾崎敬義▲松永安左衛門▲松浦興三郎▲川崎助太郎

○德川議長披露宴

貴族院議長に重任せし德川家達公は二十四日午後六時築地精養軒に寺內首相以下各國務大臣貴族院議員を招待し披露の宴を催したるが席上今期議會より議院の一員に列すべき近衛文麿公の謝詞あり八時散會せり（東京特電）

○總督東京出發

長谷川總督は二十五日午前八時半東京發歸任の途に就けり（東京特電）

○林府知事著任

林大阪府知事は廿五日朝著任せり（大阪特電）

○林公使通過期

林支那公使は二十六日午後七時二十分京奉線にて奉天着直ちに安奉線に乘換へ朝鮮經由歸東の豫定にて京城は二十七日夜通過す可し（奉天特電）

○明年豫算（一）
豫算內示會に於ける當局の說明

二十二日豫算內示會に於て示せる當局の豫算概算說明左の如し右は電大藏省發表のものと重複のものあるも更に詳細なる計數に亘りたれば特に揭ぐることゝせり

▼來年度新規要求額

大正七年度歲出概計額新規要求に係るもの及び前年度實行豫算額に對し增加を要するものに就き其事項金額の重たるものを擧ぐれば左の如し

▲外務省所管

經常部 [illegible] 八十六萬[illegible]
臨時部 [illegible]

▲內務省所管

經常部 [illegible]
臨時部 [illegible]

▲大藏省所管

經常部
伊豆七島水產經營に關する經費 八萬一千圓
但し總額十五萬七千餘圓にして五箇年度間の總額
預金利子及利子拂手數料の增加 五百九十五萬八千圓
第一豫備金の增加 百萬圓
第二豫備金の增加 百萬圓
臨時部
門司稅關設備費の增加 十四萬六千圓
但し總額六十一萬三千圓にして二ヶ年度間の總額なり
議院建築費 既報の如し
專賣局東京製造場新設費 二十三萬二千圓
田畑地價調査費 既報の如し
國勢調査諸費 既報の如し
官有財產調査費 二萬七千圓

▲陸軍省所管

經常部
精米精麥及馬糧の價格騰貴に依る經費の增加 百三十八萬九千圓
砲部要員補足の爲要する經費 二十三萬六千圓
未教育補充兵敎育召集の爲め要する經費 十萬八千圓
補充兵簡閱點呼の爲め要する經費 一萬圓
軍備充實に關する經費 八十六萬六千圓
臨時部
自動車班充實の增加 五萬一千圓

▲海軍省所管

經常部 [illegible]
臨時部 [illegible]

▲司法省所管

經常部 [illegible]に關する經費 十六萬五千圓
[illegible] 十五萬四千圓
臨時部 [illegible] 四十五萬七千圓
但し[illegible]十九萬二千餘圓にして三箇年度間の總額なり

▲文部省所管

經常部 [illegible]
臨時部 [illegible]

○南殿下參候

南殿下には二十六日午前十一時御出門德壽宮に參候李王殿下に御對顏歲末の御挨拶あり[illegible]午後[illegible]時頃還御あらせらるべしと

○海運界の前途
日本海の橫斷航路問題
朝郵社長 原田金之祐氏の談

▲海運界の好調 戰局の前途は[illegible]何れにするにせよ、大正七年中は海運界に不利を招來するやうな事は先づあるまい、從つて海運界は依然好調を續くるものと觀測して差支へない、日本郵船の如き前期に三千餘萬圓の純益を擧げたが大正六年四月より同年九月迄の今期は引上げた運賃收入の最盛期に當つて居るため、政府の鐵の禁輸や其他重要品の輸出入制限に會し荷物の數は減ずると思はるゝけれど運賃收入は恐らく前期を超過すべく或は四千萬圓近くを擧ぐるかも知れぬ

▲日郵の警戒 然し日本郵船としては海運界の前途に決して警戒は忘られぬ、遲かれ早かれ今日の反動が來る事は明らかであるから常時對應策を講じてゐる、一例を擧げると日本郵船所有船の帳簿價格は一噸四十九圓に上つてゐる船價は一噸五十錢であるが之れを時價に積ると新船で七百圓中古で六百圓であるため乃ち簿價格は七分乃至八分に過ぎない、時な新船なども高い値で買ひ込むが其の買ひ込んだ船の原價記帳は依然一噸四十九圓五十錢として其間の差額は前述した莫大な收益から購入船特別償却として埋めてゐる、斯くして反動來に備へ基礎は益々鞏固を期しつゝある

▲日郵の問題 日本郵船の紛爭問題も兎に角內部に隙がある……と云つては自分の會社の惡口を云ふ様だが……ために野心家に乘せらるゝのである、日本郵船は時局以來素晴らしく儲かる、而も役になれば收入も多いし權勢も得らるゝと云ふやうな局外者の考へが交つて色々な連中が問題を惹起したけれども今回增資も決行する事になつたし又新重役の補缺も相當な人材を得たから今後大した波瀾はなからうと思ふ、予の如き殆んど今年は東京生活を續けねばならなかつたのは全く日郵問題の爲めで商業會議所會頭たり朝郵社長として久しく留守を開けてゐるのは大方に對し甚だ恐縮の次第である

▲橫斷航路 多年の問題であつた日本海橫斷航路も本年度朝鮮總督府特別會計豫算に同航路新開補助費約三十萬圓を計上あり、議會の協贊が濟めば大正七年四月から多分[illegible]する事にならうと思ふ、[illegible]を眼前に控へた今日、總督府當局者が斯かる費目を計上されたのは內鮮の交通上、裏日本と北朝鮮の連絡上大いに多としなければならぬ、予は多少右航路に就航せしむる積りで候補船の物色もして見たが、何しろ今日から三四箇月先きの傭船契約も結べず、結んでも不利だし、さりとて此際新造船の購入と云ふ事は到底に高くて問題にならぬから、これと云ふ決定もない、然し開航が決定すれば急ぎ準備はなし得る積りである

▲會議所會頭 商業會議所會頭の改選はいつも不在勝ちなため實以て恐れ入つてゐる次第である、然し勝々の諸君から「ヤレ〜」と云はるれば、素より辭するに言葉なし、先づヤレるだけの事をやる考へです

□東京より
歐洲出兵論（四）
在京 一記者

○同じく是れ聯合國と云ふと雖も我が帝國と英佛伊米諸國とは各其の位置を異にすることを知らざる可からず。同じく是れ聯合軍と共に協同作戰に參加すと云ふと雖も我が帝國と英佛伊米諸國とは各其の任務を異にすることを知らざる可からず。

○我が帝國が聯合國に左袒して協同作戰に從事するに至りたる所以のものは前章に述べたるが如く首として東邦の平和を確保するに在り。即ち大陸に在りては支那の平和を支持し印度の叛亂を未萌に豫防し亞細亞諸國の安寧を圖るに在り。大洋に在りては支那海、南洋、濠洲の保安を圖り印度洋、太平洋の警備に任じ陸海兩面に亙りて武裝の完整を期し聯合國をして後顧の虞無からしむるに在り。苟も我が帝國にして東邦に於ける獨逸の勢力を一掃し歐洲大戰を現在の地域に局限し其の禍亂を亞細亞に波及せしめず中央亞細亞以東の方面に於ける平和を確保するに非ざれば聯合國は全力を擧げて對獨戰爭を遂行することを得ざりしなるべく。隨て軍事上幾多の缺陷を生ずるのみならず東邦に於ける聯合國の利權は獨逸の勢力の爲に壓迫せられたることを疑を容れざりし也。

○但だ我が帝國の武力即ち陸海軍の武裝儼然として東邦に屹立しつゝあるを以て單り獨逸の勢力を東邦より一掃したるのみならず支那の內訌以上大亂に至らず印度も現在の革命の動亂を見ずして小康を保つを得たるもの、豈に偶然に非ず。故に我が帝國が專ら東邦の平和確保に任じつゝあるは直接と間接とを問はず聯合國に貢獻する所の大なるものにして此の東邦平和の確保は聯合國に取りて巨億の軍資にも百萬の貔貅にも換へ難き價値あるものと謂はざる可からず而して聯合國が我が日本の努力と後援とに對して感謝せざる可からざる所以のもの此に在ることを知らざる可からず。

○[illegible]我が帝國が青島戰役[illegible]聯合國の後援に任ずるものは特に兵力の犧牲を容みて然るに非ず。帝國の東邦平和に對する任務が歐洲出兵よりも其の任務の極めて重且つ大なるものあれば也。我が帝國は歐洲に出征せずと雖も聯合國の後援として現戰局に對し既往に於て其の任務を竭し現在に於て又其の任務を竭しつゝあり將來に於て又其の任務を竭さむとする精神は聯合國の同く認むる所たるに於て是より以上戰局の擴大に伴ひて更に多くの努力を竭し多くの犧牲を拂はざる可からざるは吾人國民たるもの宜しく愼重なる考慮を要さゞる可からざる問題也。

○定例長官會議

二十五日午前十時より總督府第一會議室に於て定例長官會議開催山縣政務總監以下各部局長官所屬官署長等參集諸般の政務に關し協議を遂げたり因に來る二十八日も長官會議定日なるも同日は御用納に相當するにより或は今回を以て本年の同會議最終日と爲すやも知れずと

○辭令

二十一日附辭令を以て左の通り陞敍ありたり

陞敍高等官一等 [illegible] 工藤英一
同 [illegible] 島田虎也
同 [illegible] 國[illegible]鉦次郎
陞敍高等官二等 [illegible] 草場林五郎
同 [illegible] 新田留次郎

○東清鐵道停貨

東清鐵道にては規定の期間內に荷物引受停止の不可能なるを理由として日滿連絡貨物の引受を中止せる旨京城管理局へ通知ありたりと

○鮮銀店長異動

朝鮮銀行にては二十四日附左の如き異動を行へり

●浦鹽松田銀行部長 木原小平
●哈爾賓支店長 東京支店詰 安達欽久
●浦鹽松田銀行部長 哈爾賓支店長 阿部讓

本店詰 阿部讓氏は約二箇月間肋膜チブスを疾み療養を續け漸く最近起床せしが尙ほ行路を見る能はざるに付靜養の意味にて本店詰めとなりしもの、如し尙ほ渡歐中の吉田氏は近く歸朝し並に滿洲新店長の公表等あり遠からず幹部の間に一異動の發表を見るべしと傳へらる

○朝鮮郵船異動
支配人其他の更任

朝鮮郵船會社の支配人は創立以來專務取締役原田金之祐氏之を兼ねゐたるが今回吉田[illegible]氏支配人となり新に營業課長として日本郵船會社前釜山支店長たりし松崎時勉氏入社し既任二十五日入京したるが年內に吉田氏と[illegible]引繼を終るべし[illegible]

○露貨換算率變更

東清鐵道にては本月二十二日より[illegible]換算率を[illegible]とする旨通知ありたりと

○聯絡手荷物運賃

日滿聯絡旅客託送手荷物は[illegible]

○學生汽車割引

滿鐵京城管理局にては中學校程度以上の學生徒に對し冬季休業中汽車賃の割引を[illegible]日より一月十[illegible]日迄[illegible]

○趙子爵容態

[illegible]氏は過日來[illegible]病氣にて[illegible]につゝあるは既報の如くなるが其後の[illegible]一般人士の憂慮一方ならず[illegible]

○市川參謀長歸任

南鮮地方軍隊視察中の市川少將一行は二十四日夜[illegible]歸任せり

○谷屋武官歸任期

東上中なりし總督府附武官海軍少將谷屋六郎氏は二十六日夜歸任の筈

○原田社長歸京

東上中なりし朝鮮郵船社長商業會議所會頭原田金之祐氏は二十五日午前十時南大門驛着列車にて松崎川田兩課長同伴歸京せり

●國屋東拓土木課長 東拓土木課長國屋忠正氏は社用にて二十四日午後七時五十分南大門驛發東上せしが一月中旬頃歸任すべし

□鎌倉より
[illegible]叟 宗演

[illegible]居士
人世夢の如く、歲華流水の如く、今年も御互に臨前馬後に落在して紛に閻王面前の點檢を受けねばならぬ事と相成り申候、觀し來れば共閻王も亦た、誰かの審判に掛からねばなるまいと、氣の毒にも存候。（後略）

人事消息

▲[illegible]少佐（[illegible]）二十[illegible]日[illegible]南大門驛着東上
▲[illegible]步兵少佐（[illegible]守備隊長）二十五日朝[illegible]
▲[illegible]月夜入京[illegible]投宿二十五日朝[illegible]
▲ミラー氏（京城駐在米國總領事）二十四日夜北京より歸任

歲晩の大阪より

○一年の總勘定日は愈々迫つて來た、景氣は何うだと云へば大抵の人は好いと云ふ、好ければ樂かと云ふに少しも樂でない、皆苦んで居る、景氣の良否を生活の苦樂と全く別問題として考へねばならぬ、社會政策の衝に當るものゝ皮相の觀に欺かれてはならぬ。

○料理屋は今年中忘年會の席で詰つてゐると云ひ、年末賞與が百萬圓と云ひ、餠の値が一升四十二錢すると云ひ、歲の市は賑やかだと云ふが、それは單に社會の極僅少な或一部の然かも一面を見た現象に過ぎぬ從來の例に見ても戰爭や何かで好景氣だ〜と云つた時には、必ずその裏にドン底の苦しい生活に悶えてゐるものが多くある事を證據立てゝゐる。

○忘年會なども已むを得ぬ交際で家には妻君が渋面作つてゐる會社員が多いのだ、餠を澤山搗くから苦しんでゐないかと云ふにそうでない、子供なんかゞ多くなつて已むを得ず多く搗かねはならぬから苦しきも例年より多い割だ、金や物品の增加等で社會の安危が懸るものでない、日々憂ふ生活上の必需品が暴騰しては誰が一人暮らせるものでない、思ふべきである。

○銅貨の拂底は年末になつて愈々極度を示して來た、小賣商人の困難は一通りでない中には營業停止の姿になつてゐるのもある、煙草屋などは十錢と二錢銅貨を添て出さない限り敷島を賣らない、つまり銅貨を取るものには朝日にして與ねると云つてゐる、大通商人の町附けは小錢の手廻る處から小賣商人に睨まれて兩替屋を爲し二錢の儲けをしてゐる、神戶では電車に『銅貨乘車の際剩錢の要らぬやう小錢御用意下され度候』と張出した、應急の策を講ずべきだ。

○船成金山下龜三郎氏百萬圓を陸海軍飛行機研究費に寄附を申出でた、實に快擧だ、歐洲の戰況に鑑みると我邦國防上第一の缺陷は航空機の不完備にある、第二第三の山下氏が現れ早く日本も少しく航空隊らしいものが出來ん事を切望する。

○目下の綿絲商は一時の騷擾を脫して著々利を拔いてゐる、十、十一、十二月の紡績から引渡されて綿絲は二百二三十圓平均で當月限三百圓相場を上下してゐるから一梱七八十圓は儲かつてゐるが、二三月となると二百八九十圓の約定だから大した儲けにならぬ處へ四五六月と來ては四百圓掛みの約定だから其處で目下の儲けを吐き出す事となる、只初終可いのは紡績會社ばかりだ。

○日本で最初の試みと云ふ電氣旅館が明年一月から天王寺噴水塔の隣りに出來る、會社の工費八萬圓電氣の外他の動力は一切用ひず風呂場火鉢炬燵座蒲團まで電氣で溫まつてゐると云ふ仕掛け各室に電氣爐があつて客が自由に煮炊もできる食事も注文次第直ぐ其爐で焚けるやうにして何人前でも持て來る、純日本式客室が二十間意匠を凝らした最も新しい方法で大阪電燈會社が取附けを急いでゐる、米國の下宿屋が見たら笑はう（香取）

御禮

私共京城出發の際は歲末御多忙殊に早朝にも拘らず態々御見送を辱うし奉鳴謝候時間切迫御禮洩れも可有之と存じ不取敢紙上を以て御禮申上候頓首

十二月二十四日
山崎猛
同 光代

列車時刻表 [illegible]
十一月一日現行

哈爾賓の支那兵？

◆植民地に於ける言論界の統一は急務だ◆

關東都督府參務總長 隈部少將談

二十四日夜退京の隈部關東都督府參務總長は大連に向ふ車中に訪へば晩餐の饗應に醉めず微醺の頬を撫でつゝ語る

滿洲は舞臺が大きいので興味が多い、近頃哈爾賓へ支那兵が乘込んで大分武威を示して居るさうだが

▽極東の風雲急

急なりとでも謂つ可きだね、ナニ支那の出兵は滑稽だと馬鹿な事を、そりや鐵砲の携ぎ方は曲つて居るだらう、然し一發は一發丈けの偉力を發揮するし人間を標的にすれば命中せないとも限らないから仲々侮れないさ。併し戰爭と言ふものは鐵砲より人數よりも鞏固な結合力、最後の一兵と言ふ勇敢熾烈なる精神が無ければ駄目さ、此の點に於て烏合の衆の過激派の軍隊よりも支那兵の方が幾分優つて居るだらう。殊に吉林軍は臨時備のものは殆ど無く訓練は出來てるし始終馬賊の討伐をやつてゐるから戰爭には慣れたものだよ、此等の

▽支那兵が大砲や機關砲を並べて過激派を威嚇したならば大抵恐縮して了ふだらう。日本の態度や處置たんか即かんでも宜い、怎んな問題に就いては言論界は大いに慎重の態度を取つて貰はねば當局は非常の誤解を蒙つて下らぬ事から對手國の感情を害したり折衝にも往つて語られぬ障碍を來すものだよ。僕は滿洲へ赴任以來、切に感じて居るのは苟くも事外交に係る問題に關しては言論界が同一の步調を取つて貰ひたい事だ、尠くとも植民地の新聞だけでもね、ヤレ段が什ういふ野心をもつて居るとか孟張の湖が什うつたとか、言ふやうな事を勝手放題に書かれたら

▽神經過敏にな

つてゐる先方で

は嫌な感情を抱くやうになつた折角の計畫も水泡に歸したりする、畢竟國民外交の先驅をなす處の言論界は或一つの目標理想に向つて進まなければ國際關係に危害を及ぼすと言ふ事を頭に入れて措いて舵を操るに當つて慎重にせねばならないのだ此點に於て朝鮮は理想的であると思ふ」と頭から破せるやうに言ひ放つた少將は語を轉じて『營業製の關係から支那人に壓倒された日本人の小賣商人が喰ふに困つて惡辣な事をしたり浪人共が下らぬ事を企らんだりするので滿洲の排日熱は頗る高かつたが近頃大分減つたやうだ僕が言ふ迄もなく滿洲は借家だから日支人が相提携して事業を起したり利益を與にせねばならぬ日本人が横暴を働くやうではいつまで過つても日支親善は實現しない

雪だるま（二十五日朝の雪）

諏訪丸歸る

歐洲航路諏訪丸は二十四日神戸に歸着せるが同船には馬渕大阪高商科大學教授あり氏は六年振りにて歸朝せるが『英國官憲は日本人の瑞西に入るを嫌ひ居り[illegible]』（大阪特電）

青山博士遺骸解剖

葬儀は二十七日青山齋場にて

青山博士の遺骸は遺言に依り二十四日午後八時半帝國大學醫科大學病理學教室にて長與博士執刀の下に解剖に附したるが腦漿と胃の患部は切り取りて保存する事となり葬儀は二十七日午後青山齋場にて行はる可し（東京特電）

常陸丸の行衛

原田日本郵船重役談

果して如何なる運命に遭遇したであらうか

日本郵船會社の歐洲航路就航船常陸丸（六千五百噸）が歐行の途中行衛不明になつて既に數箇月を經過した、ツイ過般同船を何れかに報ずる事が出來たと思ふが、何等さうした形跡のない所より見れば全く失望するにも當らぬかと思はる、或は

◆捜索のため 一船の出動をさへ見たが、果して如何なる運命に遭遇したのであるか、右に付二十五日朝歸京せし原田日本郵船重役は語る、常陸丸の行衛は尙ほ茫として知る事が出來ぬ

◆萬一獨逸の 潜航艇にやられたものとすれば必らず遺留品をドコかで發見するとか、沈沒までに無線電信を發して其の遭難を

◆獨逸に捕獲 されたであらうとの臆說を生んでゐるが、それならそれで時日も經過した事だしドコからか其の報知を見ねばなるまい、更にかゝる一說もある、而して有力な一說である、それはオウストラリヤなどから英佛行きの汽船が多量の冷肉を積載して行くと、其の

◆冷肉の間に 獨探が時限仕掛けの爆彈をかくしてゐる乃

◆積荷も乘客も粉微塵

で船が出てから三日か四日か或は一週間も二週間もしてから、コツ〳〵と廻つてゐる時計が廣い洋上で爆發時期を知らすと、非常の勢ひで爆彈は爆發し船體は粉微塵になると云ふ……さうした運命に既に數度ある、常陸丸はオウストラリアには寄つてゐないが、ドコでか其種の難に遭遇したのではあるまいか、それにしても船體の破片位は見出しさうなものと思はれる

栃木山には何としても敵はない 大錦

大角力巡業組ボツ〳〵歸る

排日の酒泉瀬川一行は二十一日鶴見に、藤田一行も廿五日頃には歸京した[illegible]

◆壯烈な稽古 る數一週間の後には見られる事となるのだ出羽一行の力士誰一人として元氣ならざるはない中に栃木山は獨り群を拔いた大元氣で大錦自ら言ふ様な有樣で何の取組を取るので大錦もよく負けた、が栃木山は殆んど半箇年全勝を續けて

◆大錦と栃木 山の結[illegible]は二十二日熊本で相撲では立上ると共に双方火の出るやうに額をブッつけ合つた『鯛際』花角力では勿體ない程の大活劇を演じたが栃木は例の右筈が入ると共にズル〳〵ッと押し詰め大錦が勇を揮つて是亦ウーンと押返した、が其瞬間大錦には踏切りの失敗があつた、大錦は頗る悄然として何うも栃木山には不可ませんよ横綱たる以上は大關に勝たなくては見物に對して信用を墜すので

◆自分は横綱 以下の力士には何日も土俵に上る時は[illegible]士にして終つて場合に依れば兒取つても勝たいと心掛けてゐるのですが巧く行かない、ですから稽古の時でも三番の中二番勝つた時の嬉しさッたらありませんがタテ投げになつた時の情なさッたらありません、何しろ私の部屋では九州關でも兩國關でも皆私と互角のですから私は尙更辛いです』と華やかなるべき

◆横綱の裏面 に潜んで居る悲哀をサラケ出した、夫から駒泉と常の花の相撲を見たが駒は常の花に掛つて無造作に投られた入間川は此の兩力士は幕下時分から割が合つて駒泉が負ける時は何時でも此手でやられる、此の悲業中もノーッに用ひられてゐるのだが、而防禦策を講へ居ても矢張れでは一生此手でやられる、流石に呑氣に構へた小常陸も稍顏を振つて苦笑した、

◆大分衰へた 滷錦に小[illegible]

古證文を喰ひ物にする

年末には怪な惡漢が徘徊する

京城の年末は平穩だが各署では事件發生を慮つて每夜警戒を怠らない、犯罪と言つて別段

◆變つた節のもの◆ないが年末の犯罪に就き本町署の某警部は語つて曰く『内地では年末によくあるのが例の證拔け詐欺で、時に店頭の混雑を覘ふ掻つ攫ひや萬引もあるが京城では先づ何よりも萬引の小泥棒が最も多い、大抵闘荒しの小泥棒が最も多い、に近來官廳や銀行會社等の廊下で外套を攫はれたものが頗る多く買物の爲め家を丸空きにして置くと物騷である、商年末に押し詰つて各商店が身元や性質も確かめて

◆店員に大金を持ち せたり朝から晩迄引つ切りなしに集金をやらせることもあるが危險物である、更に近來京城で新しいのは債權の取立てを請負ひ[illegible]

◆金額の何割か 權利を買受け、或は其の金額に對する手數料を定めて置き債權者の義提數額を取めて之を請負ひ、も其の債權者方の使用人なるが如く裝ひ各債務者の家を訪問して債金の請求をするのであるが大れ等は執拗な遣り方で時に近所迄聞ゆる樣に大聲に喚鳴り立てたり[illegible]甘い汁を搾り取るが主なもので、

◆最近に大分現はれ◆た手數がその嫌いでもあるそうであるが萬一此の様な奴がやつて來たならば直ちに警察に通告するが上策である

手を極められた儀押す事が出來なかつた有樣で[illegible]

◆滿洲巡業中 まで[illegible]の元氣であつたが長崎へ來た時膀胱炎に罹つて昨今漸く回復したる[illegible]

大河内辯護士

瀆職事件棄却

瀆職詐欺事件に問はれたる大河内文次郎[illegible]判決確定となれり（大阪特電）

六郡を荒した

強盜逮捕さる

慶北尙州郡星州面[illegible]里生れ宋德[illegible]は外二名と共謀し十一月頃より十二月中旬迄に慶北永川、淸道山、慶州、漆谷、忠北忠州等の各郡に亘り棍棒を携へ九箇所より多額の金品を强奪し居れる所を慶州警察署の手に逮捕さる

◉又も浮浪者狩り

[illegible]する所謂浮浪者[illegible]本町警察署にて[illegible]十七名[illegible]

◉火事

二十四日午後九時廿分頃京城太平通二丁目百九十九番地下宿屋古賀文助方より出火蒲團三枚（價三十圓）を燒きたるのみにて同九時三十分頃消し止めたるが消防隊本町署員出動せり

◉パーカー夫人の歸國

[illegible]

▲其の成績を

[illegible]

▲千魚百目に

[illegible]

◉各派出所に

白米の山

本町署管內の雜貨屋[illegible]携帶品の量目調べ[illegible]

▲一定の時間 に運搬中の[illegible]

□警察署から家庭へ

◆荷車を放置するな◆ 市內の商店では昨今の多忙に取紛れ貨物の運搬用に使ふ荷車の始末が行届かない向が多く交通の頻繁な本町通りなどでも街に荷車を放置してある店もある、之れがため晝は交通の妨害となり夜は徘徊する小泥棒の爲めに其の金具を拔き取られるのは未だしも、其の儘持ち逃げされて朝鮮人古物屋に賣り飛ばされる事がある、警察署では此の放置車に對しては道路取締規則違反として罰してゐるから此の際荷車を所有してゐる家では一定の置場所を考へる必要がある

◉獨逸クルツプ工場炎燒

アムステルダム來電に依れば有名なる獨逸クルツプ工場は火を失し目下旺んに炎燒しつゝありと（倫敦電報）

るが尙來る廿六日に最終面會を開き徴税其他諸般の協議を爲す筈なり

商況

有價證券現物特電 [illegible]

公債直取引 [illegible]

東京期米特電 [illegible]

大阪株式特電 [illegible]

大阪三品特電 [illegible]

大阪期米特電 [illegible]

下關期米特電 [illegible]

雜報 [illegible]

◉新糖値段發表 [illegible]

社 臺灣 明治 鹽水 東洋 帝國 新高 [illegible]

◉正米持合か [illegible]

下關相場 [illegible]

◉牛皮持合不味 [illegible]

京城正米 [illegible]

南大門の廻穀 [illegible]

◉一層不振を[illegible] [illegible]

◉朝鮮米一段下落 [illegible]

◉錢段又下押す [illegible]

◉景況油類好況 [illegible]

輕油 揮發油 燈火油 [illegible]

◉內地肥料近況 [illegible]

仁川正米 [illegible]

仁川期米

▲二十五日前場 小堅し [illegible]

釜山穀物（二十四日）[illegible]

大阪小豆[illegible]

仁川米豆取引所 二十四日の二月限

東京十三錢 兵庫六十六錢 [illegible]

東京十七錢 兵庫六十六錢 [illegible]

大阪 [illegible]

天候晴天 [illegible]

市場雜觀 [illegible]

大阪期米

▲二十五日後場 [illegible]

仁川米豆引所 [illegible]

二三等客 [illegible]

天氣 北西風晴れ（十二月二十六日）[illegible]

仲買店 [illegible]

大五仲買店 [illegible]

叺縄莚 穀物及叺荷造用莚各種 大田本町二丁目 箕浦商店 長電話五二

株式會社仁川米豆取引所仲買人 全昌日仲買店 [illegible]

迅速 廣瀬正次郎 [illegible]

仲買店 [illegible]

清會線鐵道と滿洲

▼支那間島貿易の大發展

▼咸北清津及會寧の近況

新設旅順鮮銀出張所長　今井八十次氏談

◆朝鮮咸鏡北道の清津港から國境豆滿江岸の會寧に至る清會線五十八哩は去る十一月廿五日を以て芽出度く開通した、次いで來るべき問題は會寧と吉林とを連絡する謂ゆる吉會鐵道線であるが此の線は吾人滿洲に在る者の輕視すべからざるものである、遠からず清津、長春間の連絡を見るに至ればわが勢力範圍內に在る

◆大幹線として政治、經濟、交通上至大の意義あるものとなるであらう殊に奉天に於ける物資の如き或は北進して長春、吉林會寧を經て清津に出るを便利とするに至るべく滿洲在住者は尠くとも此の線の將來に對して甚大の注目を要すべきであらう、廿二日夜赴任した今井八十次氏はこれまで國境會寧に居た人であるが同氏の會寧地方の土産ばなしは次の通りである「會寧は朝鮮と支那間島との貿易地であつて從來間島に輸入された物資は約六割が清津港を經由し殘りの四分が吉林及び渾春經由のものであつたが近頃清會線の全通以來九分方まで清津經由と變つて來た、まだ一分ばかりにせよ吉林勢力が殘つて居るのは主として

◆支那の決濟期が一年二回の長期に亘るからであつてその他の事情より推せばどうしても清津勢力が浸入せなければならぬ地勢に在る、由來間島貿易は去る大正二年の最も盛んな時に於て年額百萬圓を超えなかつたが今年は既に去る十一月迄で二百萬圓を超ゑて居るこれは一面物價騰貴の影響もあらむかなれども間島方面の有望なるを證據立てゝ居ると云ふまた會寧に起つた事業にしても

◆最近製粉會社及び澱粉精製の目論見から間島材のパルプ製造も三菱の手に企畫されてある其の他會寧石炭も出るし同じ場所から日本有數の陶土が採掘されて目下內地へ輸送されてある、更らに此の陶土を目的に京都の窯業者は會寧に會社を起さむと計畫中、更に電燈會社の計畫もある、それに間島の農產物は非常なもので從來支那人の常食または牛馬の飼料に充てられた

◆『白穩元豆』は清津で一石二十七八圓もする〔一時は四十圓の高値であつた〕これは米國へ輸出されるものであるが更らに間島の小麥、白豆、青豌豆なども盛んに出る、モ一つ面白いのは從來京城、元山方面から清津へ廻された滿洲粟が清會線の爲めに遠く元山迄まで要進されたとである、從前は會寧の近くの茂山鎭までが經由の

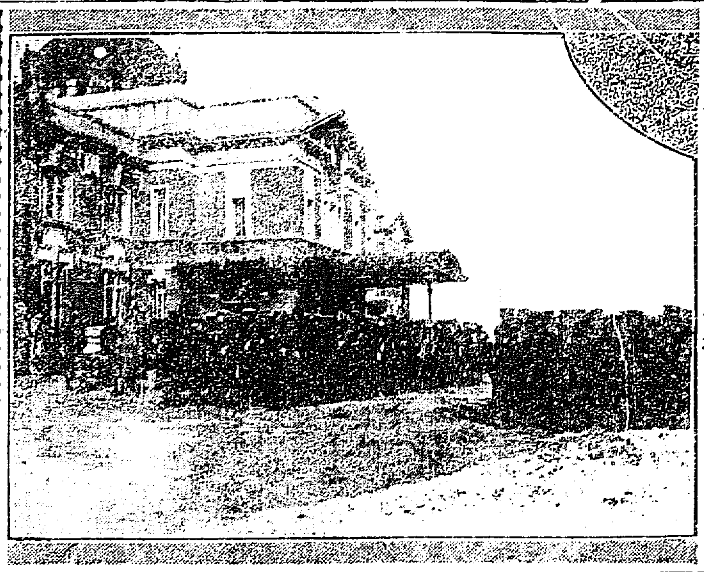
◆滿洲粟が押寄せて居たが道回廣い鐵道運賃で搬出されるからあにこれに奧地から元山方面へ仕向けられるとなるだらう

◆其他清會線の陸養線を延長すして豆滿江沿岸に輕鐵を延長する計畫もある、これに咸北の麻や間島の麻も從來各個人で行商されたものが現今では一般に會寧の市場へ集められる、斯の如く清會線の價値が重大なるのであるは近き將來に於て吉林を相結びに奉天附近の物資から清津へ吸收さるゝであらう、但し

◆清津の港灣は築港工事を施さず餘りに貧弱であるらしい

それに從來豆滿江を流した間島木材もドシ／＼出るしまた三菱經營の沿線の大鐵山首め鑛石も出る、また間島天寶山の銅山は從來清會線に使用した手押式輕便鐵道を利用して會寧から山まで延長させたいと目論見中、但し支那側の偏見と支那の私設鐵道規則に抵觸するので未だ行惱み中であるが早晩何とか物になると思ふ

い、尤も清津から日本內地は航路も大正七年度から開始さるゝから一度敦賀との連絡が出來れば將來大阪よりも寧ろ名古屋の勢力が侵入して來るであらうと思はれる、兎に角清津、會寧を首め東朝鮮の咸北地方は一大變化を來した、奉天附近の人々も相當の注意を拂はれて然るべしと思ふ」（奉天支局生）



◇之から滿洲各地の干城

◇無茶な過激派政府

◇休戰、講和と口許は一廉の大政治家◇

◆實は『君等の造つて來た樣に宜敷』◆

混亂に次ぐに紛亂を以てし宛然大火事場の手のつけ樣がない樣な露西亞に火事場泥棒の跳梁するのも自然の勢ひかもしれないが現下自稱中央政府亦の名過激派（一揆）政府、自稱國民代表委員會の自分免許の政府及び大臣なるものには隨分吾人を啞然たらしめるものが多い、それでも流石に口だけは立派なもの、政府樹立の聲明と共に

露西亞兵個自由の保障だのと一廉の大政治家振つた經綸を執行する のだと云ふが、內部に這入つて見るとその無茶さ加減に二度吃驚をさせられるといふ、それは過激派の大臣といふ者が實は事務にかけては全きりの盲であるので大小の役人達は別に執務を拒む譯では無いから毎日出勤はしてゐるもの、何かと事有ることに大臣及び諸大官に指圖を乞ひ奉ると全くそれが皮肉になつて仕舞ひ、困り切つた

大官が反つて腐敗に九年の態「どうか今迄君等のやつて來られた樣に然るべく宜敷やつてくれ給へ」といふ調子、皮肉な腐敗連をへろう一本參る『仰せでは有ります』が實はこれ迄私等は大臣の秘書でありますから……これ秋共の存思ではさうも……高事がこんな行き方だといふ……最近ある國立銀行での出來事、國費出納の一刻を爭ふ金錢出納に會計の手續の皆目の彼等、窮すれば通ずの妙案で銀行の表口に『納付者は普通の通り納付せられたし』の貼紙を出した、これを見た納金者は我慢の出來ない可笑しさを堪へて「どうか濟みませんが入金を用紙に記入して下さい」其所で度は納金者の方で困却して仕舞ひ命令通に記入して居りましたので銀行の御用紙に記入して居りましたので命令通に記入して居りました……これ迄の

ふ。これでは自由の保障も始まらないではない。講和を提唱して居る當の相手の獨逸が信じて居ないのも無理がなく斯樣な事で差迫つて居る國勢出納の大問題を如何に始末するであらうか、とは某露國通の談である。

◉平南牛皮取引

平南牛皮取引狀況を聞くに一時盛んに買付を行はれたる歐洲方面の軍靴註文等によりて當時九十五圓相場の品は六十五圓乃至七十圓見當に下落し居れり此れば前途亂調子となり居れば本年內に於ても知し能はずと雖も是れ本年內に於て落付底値なるべし荷動きは下落狀況にて目下殆ど取引皆無の狀況を呈しつゝあり

◉水陸運輸近況

大同江水運事業を目的とし組織されたる平壤運輸組は過般の總會にて平壤水陸運輸組と改稱せり發起人は內鮮人各十一名にして五十圓株千株の內發起人は五十株宛の割當にて七八分は最低十株以上にて引受け殘餘を公募するが第一期拂込は一株に付十圓なりと商同組にては一月中旬に解氷期を待つて直ちに第一期事業たる鎭南浦間貨客運輸の小蒸汽船航行を開始する筈にて目下買入れ小蒸汽船物色中なりと

◉豆油輸入無制限

一時大連當業者間に一大問題とせられたる米國の豆油輸入禁止は其後在東京米國大使館より運動の結果同國領事館に來れる通牒に依れば米國の豆油輸入は許可を得たるもの等に限るとあれどもこれには殆んど無制限にして對敵通商令に抵觸せざる範圍に於て其の輸入は無制限にて同令發布以前と何等異る所なしとの事なり

◉大連より

○大連の銀建主張者の一派は十一月一日から都督府で銀建に改めたのを見て大連取引所の建値も金建に改むと推志が當局に有るであらうと云ふ譯から先月末に上京中であつた相生會頭から急にそんな事を有るまいと云ふ電報があつたが爲めに沸きかけた問題も放棄またなかつた

○露が今度都督府で銀建ての前途を長くはあるまいと云ふやうな意味の銀建廢止問題で見たのであるが花○銀の建値を金に改むる事が、その銀建論者の主張する如く大連の衰廢に關する程の大問題であるかどうか疑問である

○銀建論者の議論を聞けば如何にも銀建の必要な事を說き盡して居るか無いかは豫め何んとも斷言し得べきではないか或る一部の人の意見に出る銀建存續運動の裏面には種々の事情があるかの風評もある

○大連取引所の建値が金に改めらるとしても大連に於ける支那人との取引に關係した大なる影響は無いであらう從來銀相場でシコタマ儲けて居た人は利益を得る事は無くなるかも知れぬが支那人を使用する取引を行はせもしむるかと云ふ點に於ても著しく利益を得るやうにならう

◉棉花共同販賣

大田郡に於ける本年度の陸地棉收穫豫想は約二十五萬斤の見込みなりしが去る十一月一日より十二月十二日までに大田郡廳及び新灘津市場の二箇所に於て共同販賣したる總數は十五萬一千八百七十四斤にして其の價格は三萬三千九百三十七圓九十四錢なるが今後の見込は約二萬斤にして約八萬斤は個人販賣等に四散したるものなるが如しと

◉慶山陸棉販賣高　慶北慶山に於ける本月十八日迄の陸棉共同販賣高は六萬九千八百五十七斤此の價格一萬六千三百九十二圓九十二錢にして同販賣豫想高六萬九千二百斤に對し七百五十七斤の超過を示せり

◇警察へ願屆出は口頭で差支無い

從來警察署に於ては一般願屆出に就ては可成差支なき限り口頭を以てしても差支ない事に取扱ひ願屆出人の便宜と事件の處理を敏速にする方針であるが

◇一般に於ては之を知らずに何でも彼でも書面でなければならぬ樣に考へ自分で書けぬ者は高い代書料を拂つて迄も書面にして出すといふ風で甚だ不便であるのみならず事件の繁忙なる從て敏速に往かぬから今回本署內ではその日頭を以て差支ない願屆の種類を大體定め又願屆は一々警察署に出すも最寄の巡査派出所に於て

◇受付差支なき願屆の種類を定むる筈であるから之も同時に其の種類を定め警察署に態々出頭せぬでも宜しいことゝしたのである而して其の種類は凡そ左の事項で一般に周知の必要があるから之を各巡査派出所に掲示することゝしたのである依て今後は一般に之を利用して無駄な手數を省く樣に望む次第である

（一）口頭で本署に受付得る願屆

（二）派出所に於て受付得る願屆

[illegible]

◉連絡船上陸

[illegible]

今年も亦歲暮年始の贈答品には買つて重寶な赤玉が一番!!

「一言」ば賞く程品の良くなる美味で滋養一葡萄酒

赤玉ポートワイン

「朝夕の一杯は百藥に優る」とされたらの寒さにも不思議に体を保ち血色をよくする美味滋養の葡萄酒!!

謹告

例年の通り

忘年會新年宴會、御正月重詰其他御料理御好に應じ可申候

右不相變御用命仰付被下度候也

京城南山町一丁目三番地

會席御料理　松葉亭

電話二三五番

滋養美味

年末年始の御贈答品

容器は高麗燒にして朝鮮土產の逸品なり

特價三十錢

元山本町四丁目電話三六番　四三五番振替京城一六〇八番

製造發賣元　横山兄弟商會

京城に至る處に有り

◎本場みかん大賣出し◎

●注意●本年は蜜柑大兇作のため他府縣蜜柑の石油箱入を紀州箱に詰め替へ紀州本場蜜柑と稱し販賣する奸商者あり箱の蓋の上に㊨の商號に御注意御買上願上候

但一箱三錢る御值段に差上候御來店奉願上候

京城南米倉町市場

紀州本場蜜柑　京城賣捌所

果實問屋　㊨岩城馨商會

振替京城一〇〇六番　電話八四二番

景品付賣出し

十日より卅一日まで

皮より强い値の安い

專賣品柳製鞄

日ノ丸國旗附屬品

毛布二枚續き　三圓五十錢以上金六圓々

防水布マント各種

魔法瓶及中瓶取替

鞄製造販賣

京城本町一丁目

高木旅行用具店

電話一三四番

年の餅の御注文ごしく願います

京城本町

大和軒

電話四八九番

皮膚科外科專門

皮膚科　外科、內科、小兒科一般診療

（內科、外科午前。皮膚科八午後夜間診療）

大平通二丁目（電話三三九八番）

扇田醫院

謝近火御見舞

本月二十三日朝本所病院火災の際は早速御見舞を御厚情の段奉鳴謝候尚不取敢紙上を以て御禮申上候

兼二浦製鐵所

三菱製鐵株式會社

報豫

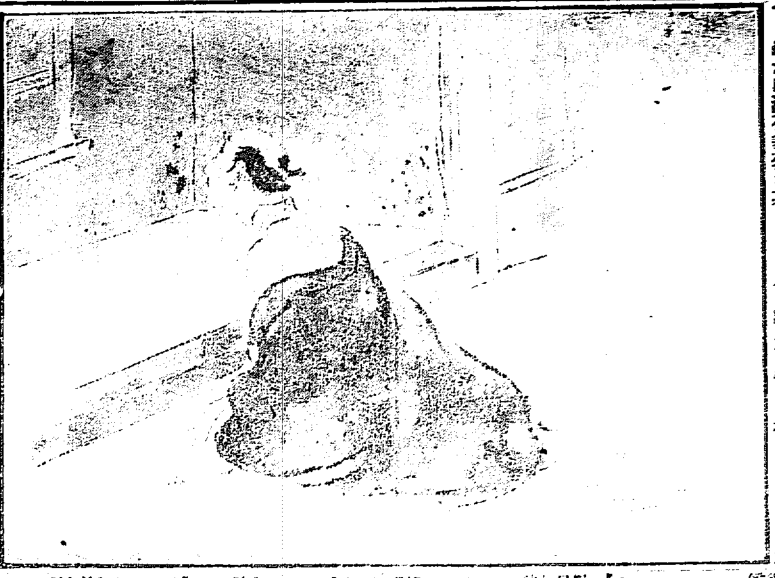
[illegible]

左甚五郎

第百二十四席

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

建具屋喜右衛門は心斎橋通りの近江屋嘉兵衛といふ質両替屋旦那の供をして奈良の春日神社へ参詣に行く事とて、種々留守中のことを女房のおちかに云ひ置いて出懸けてしまふ。等伯は寄合に行く時刻になりました故、喜右衛門の衣類を著た、おちかは男は閾を跨いで出れば七人の敵のあるもの、其処でお金の入用が出来やうも限らないと若干かの心付けを等伯にもてくれたは流石奢奢な暮しをして居る家の女房、何から何まで行届いたもの、それでは行つて来ますと参りました先は今の新町、其の頃瓢箪町と云つた所、土地で有名な酢月といふ貸席、女「入らつしやいまし」等「此方へお上んなさいまし」等「あの御城内へお出入の職人衆はお寄りになりましたか」女「へエ此方がお帳場でございます」等「エヽ今日は結好なお天気で、お芽出度うございます」〇「へエ何誰でございますか」等「私は建具職喜右衛門の家の者でございますが、今日は喜右衛門が拠ろなく他所へ出まして参ることが出来ませんによつて名代に参りました」〇「あゝ然うですかそれは何うも御苦労さまで、鳥渡帳場へお名前だけ記して置きとうございますが」等「ハイ喜右衛門方の者七さ申します」〇「さア何うぞお二階へ、御案内を申上ておくれ」女中が案内をする、成程大きな座敷へ大勢ズラリと並んで居る、等伯は一番隅の方へ行つて席に附いたが、後日名を揚げる人何処となく通常の人とは違ひます、又等伯の人の目から見ると何となく茫然として居ります。他の者は皆な何かの打合せをしたり互の詮議をしたりして居りますが、等伯一人は手持無沙汰、仕方がないから酒ばかり飲んで居る。初めはチビ／＼遣つて居たが、終には大きな物を借りて誰にも構はずグン／＼飲で居る、酒が無くなると手を叩いて女中を呼び、酒を持つて来させては飲む〇「オイ／＼源さん」源「何だ」平「さん」源「何だねあの向ふの隅に居る男は」平「彼は建喜の家の者だとか云つて今日名代に来たんだよ」源「へエー、何だか知らねえが馬鹿に飲るな」平「ウム、変な男だ、話しをしても挨拶も碌々出来ねえ様な男だが、酒だけは感心に能く飲るよ」源「何だつてあんな男を名代に寄来したんだらう」とヒソヒソ噂して居るが、等伯はそんなことには頓着なくグビリ／＼飲つて居る、其の内に追々酒が廻つて来るに従つて、唄を唄ふ者もあれば踊を踊る者もあり大変な騒ぎ、等伯はニヤ／＼笑ひながら飲んで居たが、軈て充分に酔が廻つたから其儘横になると肱を枕にしてグウ／＼高鼾で寝てしまつた、其の内にお開きといふことになつて御膳は皆な下げられ、お客も残らず帰つてしまつたが、等伯は前後不覚に睡入つて座敷の隅に只た一人取残されてしまつた、[illegible]日、隙を洩れて吹込む夜風が身に染みて来るにおのづから目を覚して「あゝ酷た／＼、[illegible]」[illegible]つて見ると、四辺は[illegible]敷に只た一人寝て居る、イヤ[illegible]の快いものだ[illegible]ないと見て彼方此方をキヨロ／＼[illegible]して居る内に、床の間に掛けてあつた七福神の大幅に目が著いた、其の道の人だけに悲慘だらうが見過しにはしたくない、[illegible]て暫く熟視し居りましたが[illegible]の図は却々能く出来て居る、[illegible]の主人も正月のことで餘程働いて掛けて置いたものと見ゐる」と頻りに感心をして居りました



高麗人蔘エキス

高麗人蔘エキスは品質の純良を以て多大の信用と賞讃を博しつゝある

京城府明治町二丁目　小笠原大薬房　電話一九四八番　振替京城三七五三番

日本醬油株式會社　京城出張所　電話二四五〇番

急告

[illegible]

大正六年十二月廿五日　京城大和町通二丁目

歯科診療所

本町一丁目三越向通（電話一四七番）

歯科医院　歯科医士　野田隆清

帰へるさしより　木村屋パンの　京城土産が待ちかねる　（京城本町　電話二八七〇）

暦

十二月廿七日九星

舊十一月十三日 癸卯 本命四綠 弱平大安

▲四綠●　目的の遂れる事有日新幸見有日北方は吉時勢吉▲五黄●　理不盡の事有日新事手控在事は吉婦人と相談を忌む▲六白●　一喜一憂の日なれども新事控目の方吉保證印等を慎す▲七赤●　援がれ迷惑の事有日新事手控吉▲八白●　是非なきたのみ事有日は妨なし▲九紫●　和事手控和事は吉紹介せわ事を慎す▲一白●　大吉日物居入學祝吉女子は思外の良縁を得る大吉祥の日也▲二黒●　むかしの事有日新事手控和事は吉▲三碧●　応押を得る日吉

演藝案内

稲荷座　有樂館　浪花館　大正館

[illegible]

名流婦人の時世粧

高尚で美しいお化粧の仕方

（第一に）[illegible]

（第二に）[illegible]

（第三に）一番高尚で美しい艶の出る　クラブ白粉

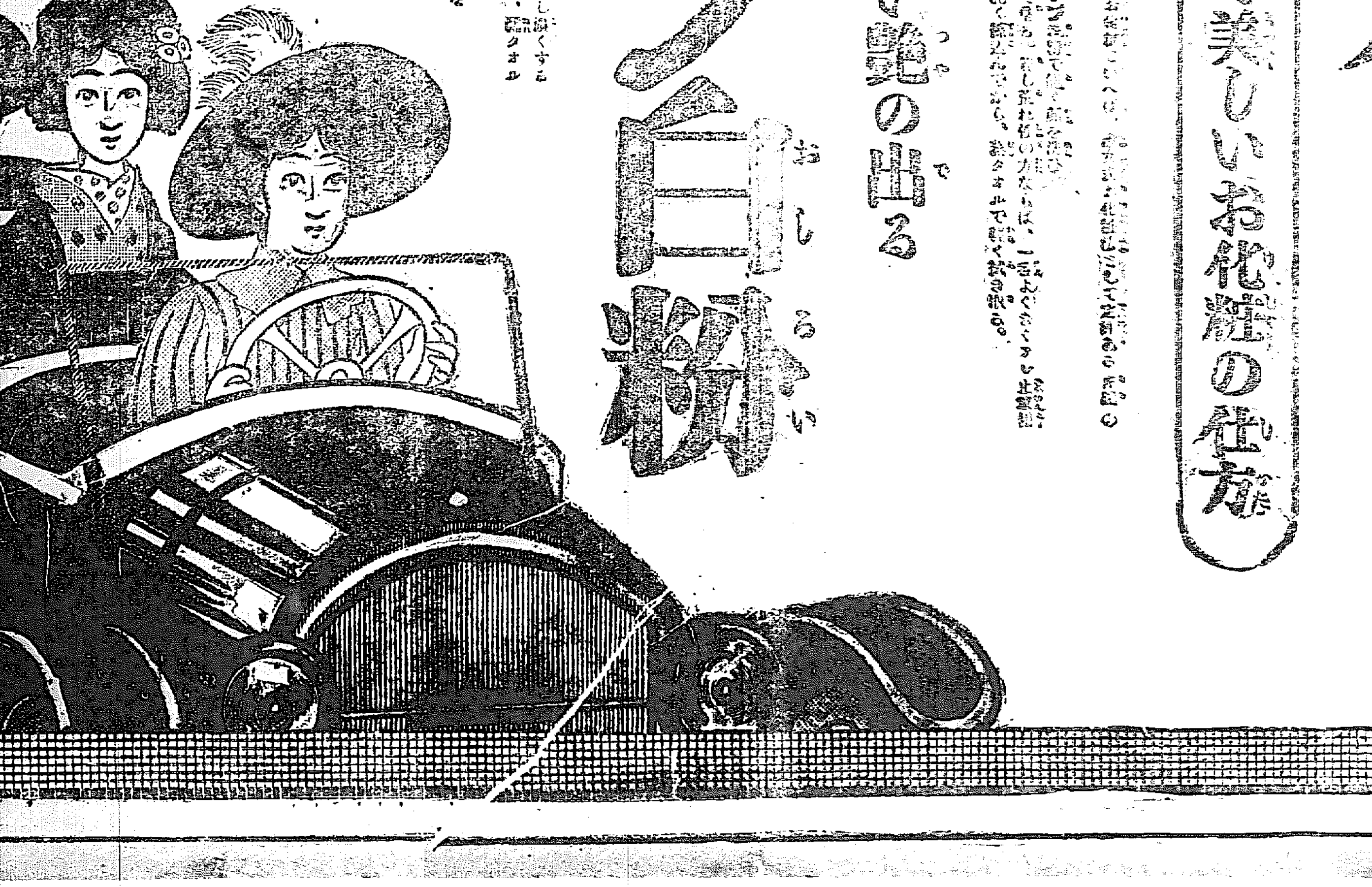
（第四に）を奇麗に取り、指先で能く伸べて付け、額は他よりも少し濃くする事、牡丹刷毛で白粉を延ばし、水刷毛で白粉を均らし、タオルで押へて白粉を落付かせる。

お顔にホンノリと桜色の健康色を添へるクラブ頬紅なり目の下から頬へかけて薄く刷きつける。

（第五に）お化粧に一段の生彩を添へるクラブ粉白粉をセーム革につけて顔に薄く打ち、私はポットに粉白粉を含ませて刷いた上をセーム革で軽く打つて置きます。高尚で美しい淑女式のお化粧が出来上るのでございます。

淑女式お化粧の順序

クラブ洗粉　クラブクリーム　クラブ白粉　[illegible]　クラブ頬紅　クラブ粉白粉



京城日報

二十六日朝刊
（朝夕刊併せて八頁）

第五版

仁川期米
△二十五日後場
大阪前止め後らず後寄未著に當場
壯中十九圓六十八錢先六十三錢よ
り七十錢三節七十一錢三錢二錢平均
値段七十二錢四節七十一錢六十九
錢八錢平均値段七十一錢
▲先限一節十九圓六十三錢四錢五
錢四錢五錢二節六十四錢五錢三節
[illegible]

後場
寄付　十九圓六十三錢
止メ　十九圓六十一錢
高値　十九圓六十六錢
安値　[illegible]
出來高　[illegible]

露獨單獨講和

京城日報

露國過激派政府と、獨逸墺洪國との間に休戰條約成立するや、兩者は續いて講和交渉を進め、露國は全交戰國に一般的講和を勸告する[illegible]序なりと云ふ、獨逸は豫てより露國との講和を急ぎつゝあり、露國過激派は則ち獨逸の器械なりと指目せらるゝところの者なれば、獨逸は此政府を相手として和を講ずることを欲するや勿論なり、併ながら所謂過激派政府なるものが、何時まで其權勢を維ち得べきや否や疑問なるのみならず、協商諸國未だ過激派政府を承認せざるを以て、其の勸告を容れて講和談判を開始するは必無の事と謂はざるべからず。

露國過激派政府なるものは、固とレーニン以下若干親獨派の集合體なれども、其の若干の兵力を有する點は、確に他の政治團體に對して優勢を占むるに足るべく、又其の主張が戰爭を止むるに專らなるは今日の露西亞人に投合するに足る、是れ其の比較的に持續力を有する所以なり。然れども露國民未だ過激派に歸依せりと云ふべからざるのみならず、協商諸國政府は未だ過激派政府を承認せざるを以て、一般的講和の勸告の如きは遂に一顧をも得ずして已むべし。

最近露國に關する報道區々なりと雖も、ウクライナは既に獨立を宣言し、過激派政府亦之を承認したりと云ふ、芬蘭、高加索も相繼いて獨立すべく、西伯利亞も亦自主自治を主張するに至るべきや論なく、露西亞は四分五裂の狀態に陷るを避くべからず、而して今日露國內を通じて過激派と反過激派との爭鬪を見ざる處なきより推すときは、過激派の權勢を揮推するは、畢竟一時の事にして、早晩傾覆を免がるべからず、獨逸が從來レーニン一派を自己の爪牙として使用しながら、今日に及んで兎角低徊顧眄の色あるは、蓋し其の運命の長からざることを知るが爲めならむか。

故に獨墺は果して露國過激派政府を相手として、眞面目に講和條約を締結するの志ありや、否や疑問なり、且露西亞は最早戰鬪な[illegible]の意思能力なき[illegible]、獨墺と休戰し、更に講和談判を開かむとするものなれば、假令講和條約を取り結びたりとて、七年戰役當時の露西亞の如く、一轉して敵國と同盟し、露國で昨日までの味方と戰ふものにあらざるや論なきなり、只露西亞は千九百十四年の倫敦條約あり、單獨不講和の義務あるに拘はらず、此度は平然として獨逸と講和交渉を敢てして顧みざるより推すときは、昨年の巴里經濟同盟條約の如きも亦露國人を拘束するの力ありや否や、現に獨逸は通商貿易上の特權を以て、休戰條約の根基と爲し、更に其商工業者をして露國と直接取引を爲すに就き、奔走盡力せしむる筈にして、獨逸は協商國側の巴里條約を破壞するを以て、主一目的と爲すものゝ如し、然れども今日の露西亞に對して彼是議論するは甚だ迂なり、其力盡きて敵國の爲めに玩弄せらるゝ、吾人は寧ろ此に多く言ふを欲せざるなり。

支那漫遊

獻身的努力者

蘇峰生

支那に於ける、宣教師の事業に就ては、其の効果如何を疑ふ者、世上其人少からず。予の如きも、亦た然り、是れ宣教師側に屬す可き責任なる乎、將た支那人の素質に於て缺點あるが爲め乎、そは兎も角も英米其他宣教師中に、極めて眞面目に、獻身的努力を做しつゝあり且つ大仕掛の經營を成し、且つ企てつゝあるは、見逃がし難き現象と云はざるを得ず。例せば北京に於ける精華學校、南京に於ける金陵大學、而して濟南に於ける齊魯大學の如き、其の適例也。

予は親しく齊魯大學を一覽して、其の規模の大なるに驚けり、此の大學は英國浸禮教會、米國長老教會等の戮協になるものにして、其の敷地のみにても、七八十エーカあり、而して其中に醫科、文科、理科、神學科等を設け、今や醫學校の如きは、從來城壁內にあるものを以て、之に充て、其側に病院あり何時も入院者滿員にして、日々の治療を請ふ者、三百人を下らずと云ふ。蓋し殆ど施療に均しければ也。其の入院料の如きも、二十錢にして足れりと云ふ。

予等はブルス氏の案內にて、新敷地に新築したる、三層の大科學堂寄宿舍、及び食堂等を見たり。此の大學は未成品にして、目下資金六十萬圓、其の建築の如きも、漸次に完成す可き計畫なり。ブルス氏は英國倫敦大學の出身にして、支那山東省にある約三十年、自由に支那語を操り、頗る事務に練達したるものに似たり。而して該校の諸教授、外人で、支那人とを問はず、何れも支那語にて教授しつゝあり

予は亦た該大學に附屬したる、廣智院を見たり。院は一種の博物館にして、支那人を實物標本によりて、教育す可く特設せられたるもの也。而して院內に講義室ありてあらゆる、問題に關する、通俗的講義をなしつゝあり。予等の見物したる時も、通俗衞生の講義ありき。予は此の院を一覽し、其の材料の餘りに豐富ならざるに拘らず其の陳列の、秩序的にして、統計や、表や、圖面や、雛形や、模型やを用ひ、特に其の說明の親切、丁寧而して最も、要領を得たるを、識認せざらんとするも能はざりし也

此の院は元來一八八七年—明治十年—リチアード氏によりて青州に創設せられ、濟南に移轉したる最初の十年間に、觀覽者二百卅六萬七千人ありしと云へば、其感化の普及したる、蓋し大なる者ありしならむ。リチアード翁は、今や英國に逗りて、其老を養ひつゝあり現今の院主は、翁の友人ホワイトライト翁にして、氏の青州にある二十年、濟南にある、十六年、通計三十六年を、山東に送り、今尙ほ孜々勉强事に從ひつゝあり。予は此の館中の陳列、及び說明の餘りに該實、精要なるに感心し其の創立者リチアード翁の肖像の前に立ち欽慕に勝へず、其の小傳を得んと欲して、偶然現在の館主たる翁に面會せり。翁も亦た英人にして、如何にも篤厚、溫雅の君子たる風采あり。

遲すべく〳〵も學校は、必らずしも一覽せざるも、何人も此の廣智院丈は、一覽の價値あり。是れ內容の充實したるが爲めにあらず、唯だ其の如何に材料を消化し、整理し、善用しつゝあるかを、驗せんが爲めのみ、此の如くして通俗博物館も、始めて其効用をしる可きのみ。

惟ふに我邦の各宗教家にして、果して一生の歲月を、支那傳道の爲めに投沒する決心ある者ある乎予は英米其他の宣教師の[illegible]にあらざるも、彼等の中に、此の如き獻身的努力者あるの事實は、縱令曉天の星の如く少きも、尙ほ曉天の星として、其光を認めざるを得ざる也。

大正六年十二月二日午前[illegible]時
山東省[illegible]停車場前の[illegible]

▲訂正　廿五日掲載本紙[illegible]行及び四十二行目に[illegible]とあるは[illegible]正又同日[illegible]とあるは[illegible]

朝鮮古墳の變遷（二十三）

八木奘三郎

（丙）遺物の種類

次は鏡鑑の類を日はんに、彼の樂浪帶方時代の古墳より出る鏡鑑は無論漢鏡の部類に屬する品のみにて其中には子孫長宜鏡、青蓋鏡、四[illegible]鏡以下の數種あり、就中長宜鏡の數量多きは一奇と謂ふ可し、蓋し漢鏡の研究は未だ精微に達せずと雖も、大體上子孫長宜鏡の類が他より古かる可しと云ふことは專攻家の皆く認むる所なり然るに其古式に屬する鏡鑑が比較的新らしき古墳より多く出るは聊か解し得ざる點あり、去れば其發見は確實なるに依り、右を偶然の結果と見るか、然らざれば舊來の見解に過りあると見るか、或は其等の墳墓を以て古き時代のものとするか、此數者中の孰れかを採らざる可からず、然れども予は其凡てを採らざると同時に他に一個の所見あり、其事長篇に涉るを以て今回は記述を略すれども、何れにせよ支那鑑鏡の沿革は諸子の說く所未だ徹底せず、隨て時代の推定も間々誤れる例あり、故に今後の研究を必要とすれ共、朝鮮の古墳發見品は其塚と副葬品と共に判明せるに依り、右の根據を定むるには最も有益なる好資料と謂ふ可し。

次に硝子類の略を日はんに、此種の主類は往々樂浪古墳の中より出づることあり、然れども當地の分は大抵小珠に限りて和漢の如き大作品を見ず、且つ其色も紺、藍以下の三四色に過ぎざれば極めて貧弱の感を生ず、反之日本の玻璃製品には椀あり、皿あり、又曲玉以下の類あり、外に色彩は紺、綠、藍、紫、黃、赤、白等の數種類あるを以つて一層の美觀を添へ人をして轉た恍惚たらしむ、蓋し日本傳來の玻璃品は、予等を初め他の人々も多くは朝鮮の地を經て支那より流入せしものなると信せしなり、然れども今日半島の實情を判斷せし上より考ふれば、日本の分は寧ろ吳國地方より直接輸入せしが如くに思はる、何となれば其品は餘りに精美にして且つ品種の割合に多ければなり、勿論曲玉の如きは確に日本製なれば他も自作を云ひ得ざるにあらざるも、斯く考定せば年代少しく古きに過ぐるの嫌ひあり、今其大體を言へば、美なる玻璃製の容器は嘗て[illegible]陵より出でしこと有り、蓋し同年の崩御は普通東晉安帝の隆安三年に相當し、今日の學者は猶幾何か其年代を引下ぐる風あれども、大體に於ては彼の樂浪、帶方時代の古墳と踏だしき逕庭なし、然るに此種少なる期間に於て玻璃製造の技術を知得せりとは信せられず、故に之を支那に仰げりと見る方穩當なる可し、殊に履中、仁德の間には吳國との交通あり、又支那の文化も多く南方によるを以て、日本も直接彼地に往來し、隨て玻璃の器物も主として右の方面より流傳せしものゝ如し。

以上は主に日本關係の記事に涉れども、右の解釋を下し得たるは一に朝鮮研究、就中玻璃製遺物の鑑を明にせし結果なれば間接の効力は敢て他に讓らざるを知るに足る可し。

どうして

布施生譯

二十五

してみると此二日あの退屈千萬な旅をした目的と云ふものは全く此家を訪ねる爲であつた。國栖は呆氣に取られながら武烈氏の姿が坂の側に消れたのを見送[illegible]そつと隱場所から跳出で、もしや武烈氏が見落した何かの手懸りがありはしないかと、ぐるり家の周圍を廻つてみた。しかし戶口も窓も嚴重に錠が懸つて到底這入つてみる手段は無い、國栖は漸念して引返そうとした

折柄學校歸りと見える小兒が男女混合で二三人辨當包を振廻しながら元氣に遙方から飛んできたが國栖の姿を見ると氣味惡そうに押黙つて尻込した、國栖は構はず此方から言葉をかけて一つ二つ慫こらしい愛想を言つた上肩越しに背後の家を指してあれは誰の家だと尋ねてみた、小兒はそれを聞くと唯さへ青くなつた顏を一層青くして小さくなつた。

それでも其中で年嵩の男の子が「伯父さん知らないんかい、此處はね、ロッチル銀行のお金を盜んだ惡い人が住んでゐた處だよ。其人達はね監獄へ這入つてたんだが逃出して——」言ひ懸けた所へ同伴の女の兒が慌しく袖を引いて注意した。男の兒もそれではつと氣がつくと吾ながら悸手してちらりと國栖の顏を竊見たかと思ふと突然女の兒の手を把つて眞暗三寶駈出した、國栖は國栖で矢張り今の話に悸手として、さては此人氣も何ない淋しい廢屋が長い間警察を手古擦らせたあの名高い惡人の住家なのか、國栖は自分で自分の耳を疑ふ程に意外に思つた、暫くしてやゝ落付いてみると成程彼奴等の故鄕は此處であつた、それにしても——

暮へかけて國栖はもう一度振返つて唯さへ薄氣味の惡い其家を眺めた、今の話を聞いてからは妙たものて家は俄に惡相を帶びて寂然と閉した窓や戶口にも何だか黑い陰影が纏はつてゐるやうに思ひなされ、庭先の松の樹さへ秘密を隱してゐる心地がして家全體が恐ろしい罪惡の窩とも見做され、朽ちた軒端に絡付いた蔦葛から摩滅つた敷石まで何かそれ〳〵罪惡の印を留めてゐるやうで何とも謂へず氣味が惡い、思廻す內に一體武烈氏とも謂はれる巴里一流の紳士が何だつて從者をもつれず一人でこつそり此樣處へ來たのかしらと思付いた、希望か恐怖か失望かそれとも又慾張仕事か復讐か、どんな用事で態々二日の旅をしたのであらう、ロッチル銀行の盜賊と云へば二年以來佛蘭西全體に風評の花を咲かせて就中此六週間と云ふものは全國の警察に目を眩はさせてゐる大惡人である、武烈氏は此家が彼等の巢窟だと知つてゐるのか知らないのか、用事と云ふのは一體どんな事であらう、國栖は樣々思廻したがいくら考へても纏まりがつかぬ、仕舞には呆果てゝ其解決は追て阪探偵長にでも委ねる事とし今は兎に角家の中を檢分する心算で中へ這入る工夫に思案を凝らした。

本紙定價　[illegible]
廣告料金　[illegible]
發行兼編輯人　奥山直[illegible]
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　京城日報社
電話　編輯　[illegible]　營業　[illegible]
振替貯金口座京城三〇〇番

謹告

時下嚴寒の候各位彌々御清適奉恭賀候
陳者創立以來甚大の御眷顧を蒙り居候
處今般會社を解散致し現在の諸設備は
勿論會社の權利義務一切を擧けて社長
藤田謙一に讓渡し名稱を日韓印刷所と
改め個人經營となし更に業務の擴張發
展を計る事と相成申候間會て弊社に賜
りし眷顧と同樣尙一層の御引立御願申
上度此段謹告仕候也

大正六年十二月二十五日

日韓印刷株式會社

謹啓歲末匆忙の砌各位益々御淸福奉慶
賀候陳者創立以來多大の御眷顧を蒙り
候日韓印刷株式會社は今般解散に決し
現在の諸設備は勿論會社の權利義務等
一切を元社長藤田謙一に於て繼承致し
名稱を**日韓印刷所**と改め純粹の個人
經營となし更に**業務の擴張發展**を
計ると共に懇切と誠實と敏速とを唯一
の旗印とし從來の通り營業を持續致す
事に相成申候間尙一層の御眷顧と御高
庇とを賜度伏而奉懇願候此段謹告致候
敬具

大正六年十二月二十五日

日韓印刷所
所主　藤田謙一
支配人　明石桐一
副支配人　久家恒衛

東露の形勢

▲イルクーツク反過激派奮起 ▽終に政權を奪取す

イルクーツクよりの情報に依れば同地の反過激派は地方青年團の援助を得て二十三日前過激派より政權を奪取せり此の爲めに兩派の衝突起り一時露都方面との連絡絶えたり(長春電報)

▲兩派爭亂愈激烈

イルクークの過激派と市民との爭亂は愈々激烈にして過激派は市會市廳電信局を占領したるも市民軍は砲兵團の應援を得て目下氷結中のアンガラ河の要害より過激派を砲擊したるが二十三日來市民軍の勢猛烈にして商業團は資本を盡して市民軍を援助し居れるが市街の一部に火災起り貴金屬、毛皮商の掠奪せらるゝ者多し獨逸俘虜過激派中に在り(哈爾賓電報)

▲支那兵士派遣目的

東淸鐵道及び北滿の利源回收著目

長春より哈爾賓に向け支那軍隊の輸送連日行はれ今日(二十五日)迄約一萬に達せり 支那が斯くの如く多數の派兵を試み居るは啻に哈爾賓治安維持の爲めのみならず此の機會に於て東淸鐵道及び北滿の利源回收に著目せるものと察せらる(長春特電)

▲濱江道尹剱ね付く

二十四日哈爾賓過激派副首領ベラウイン氏は支那の濱江道尹施照常と會見し支那の出兵の理由を詰問し猶曩に逮捕せし自稱執政官の釋放を要求せるに對し道尹は出兵は北京政府の命に依る其の他の事は貴官と交涉するの必要を認めずと剱ね付けたり(長春特電)

▲鐵道聯合會勸告

二十三日哈爾賓鐵道同盟會は各分會との聯合會を開き過激派に對しホルワット長官と妥協して哈爾賓の治安を維持す可く勸告を試みたるも過激派は依然政權を渡せとの要求を固執し居れり(長春特電)

▲リウチン氏逃亡說

哈爾賓過激派首領リウチン氏は那邊にか逃亡せりとの報あるも確實ならず(長春特電)

◎武裝的調停準備 ▽段芝貴總長の眞意

停戰命令は二十四日國務會議にて可決せられたり同命令は二十五日發表の筈にして新任陸軍總長段芝貴氏も南方の形勢に多大の變化あるを以て強ひて停戰命令に反對せざるも彼が二十四日の國務會議に缺席せるは心中停戰安協に贊成し居らざる爲めなりと觀測さる、武裝的調停の用意として第一第二兩路の軍隊は豫定の如く南下す可し第一路の先發部隊は漢口に派し後續部隊の到著を待ちて岳州に進む可く第二路の軍は江西の南昌に集中し以て講和の後援を爲す計畫なりと(北京特電)

◎龍濟光軍敗走す

龍濟光攻擊準備中なりし廣東軍に屬する軍艦六隻は十九日廣東沖合にて龍軍と開戰の結果軍艦四隻を奪ひ兵三百を捕虜とし龍軍は海南島に敗走したり(廣東特電)

◎對露警戒

[illegible]は之に關し果して如何なる態度に出づべきか目下の形勢より見れば[illegible]國は場合によりては其の駐露使臣[illegible]るに難からざる所なるが或は聯合[illegible]一家を借受けたる事實あるも其後[illegible]穩和派の勢力は壓迫せられ莫斯科[illegible]が如きを無かるべきも今後の形勢に依りては如何なる態度に出づべき[illegible]に取りて大に警戒を要すべきもの[illegible]國と見做さゞるを得ざるに至る何[illegible]露國への輸送も自然中止の姿とな[illegible]さる可から ず然れば英國方面より[illegible]

◎王世子御參內 御禮言上

二十五日步兵少尉に任官ありたる王世子殿下は同日午後一時三十分御參內 天皇陛下に御對顏任官の御禮を言上せられたり(東京特電)

◎宮內官更迭

二十五日附左の通り辭令ありたり(東京特電)

任宗秩寮總裁 特命全權大使正三位勳一等侯爵 井上勝之助
任帝室博物館總長兼圖書頭(一等) 陸軍軍醫總監醫學博士文學博士 森林太郎
任主殿頭(二等) 式部官 市來政方
任大膳頭(三等) 式部官 上野季三郎
任內大臣秘書官長 宮內大臣秘書官兼宮中顧問官 近藤久敬
兼任內大臣秘書官(三等)
依願免本官兼官 帝室博物館總長兼內大臣秘書官長 股野琢
任宮中顧問官(一等) 主殿頭 吉田醇一
任宮中顧門官 [illegible] 久我通久
依願免本官 麝香間祗候被仰付 [illegible]

◎第四十議會成立

▲貴族院

第四十帝國議會は二十五日を以て召集せらる貴族院は午前八時五分に各議員順次參院二百九十九名出席午前九時德川議長は部屬抽籤を行ふ旨を宣し各議員は各部室にて部長理事の互選を爲し終りて部長は院規第十一條に依り本院及び政府及び衆議院に通告を[illegible]十一時散會せり

▲衆議院

衆議院は午前[illegible]時各自控室に集合[illegible]時振鈴に[illegible]議場に入る[illegible]長は書記官をして議員の異動を報告せしめ新たに議席に就きたる村[illegible]、松[illegible]一郎、秋山全[illegible]、綾部[illegible]、寺田省歸、石原淸太郎、鈴木久次郎の七氏を紹介し[illegible]長理事互選に移り[illegible]部屬抽籤[illegible]

◎日進舞鶴凱旋

日進は二十日久し振りにて舞鶴軍港に凱旋せり(舞鶴電報)

◎勝田汽船增資

勝田汽船會社は一千萬圓に增資する事に決定せり(大阪特電)

◎中村都督歸任

中村關東都督は滿鐵重役會議就任の爲め滯連中なりしが二十五日會議終了せるを以て二十六日午前七時五十分發旅順に向け歸任せり(大連特電)

◎鮮人の滿洲移住 ―隈部少將談―

關東都督府警務總長隈部少將は石黑大尉を從へ二十五日午前十時半通過歸任せるが其談片に曰く「鮮人の南滿移住は歡ぶ可し故に之が保護指導には官民共に怠たるを許さずされど餘りに急激なる効果を望まれず要は相互の意思疎通し了解し自然に堅實なる地步の上に進展を期せざる可からず」と(安東縣特電)

◎吉林金鑛出願

東興公司は農商部に出願し吉林磐石縣帽兒山の金鑛採掘の許可を請求せり(北京特電)

◎東淸運賃値上

東淸鐵道運賃値上は愈々一月一日より實行する事に決定し値上率は[illegible]

◎貨物受入警戒

長春に於ては哈爾賓行貨物の輸送を一時停止する旨東淸鐵道より滿鐵に通知し來れるも寬城子驛長は本社より何等の命無しとて從前通り貨物の受入を爲し居れりされど何時停止の命來るやも測られざるより滿鐵にては下準備の爲め一般荷物の受入に手心を加へ警戒しつゝあり(長春特電)

◎旅順工科學堂長

旅順工科學堂長心得富田忠詮氏は學堂長に陞進教授石原正治、神谷豐太郎兩氏は各高等官二等に陞叙されたり(大連特電)

◎歲末經濟狀況 堅實なる膨脹

本年來歐洲戰局の擴大は輸出入品の制限爲替の禁止等諸般戰時政策の頻出と成り加ふるに船腹不足は本年に入り益々甚だしく運賃は昂騰に次ぐに昂騰を以てし鐵道の輸送力亦缺乏を訴ふる等內外取引上の障礙夥からざりしにも拘はらず朝鮮に於ける貿易は輸移出の大宗たる米穀を始め豆類繭棉花等孰れも生產高の增進に加へて相場の

▲稀有の高値を唱へ鑛業界及び水產界亦活躍し輸移入に[illegible]

[illegible]一般購買力の增進物價の[illegible]料の騰貴並に事業界の盛況に伴ふ企業熱[illegible]荷等に由り頗る好況なり[illegible]を以て十二月十五日迄の出入額は一億八千五百萬圓の巨額に上り前年同期に比し實に四千[illegible]百餘萬圓の激增を示せり[illegible]如くなるに搗て〻生產物の[illegible]く地方の潤ひ及び昨年末[illegible]計畫續出して直接間接內地[illegible]の流入を促したること等相俟つて朝鮮經濟界は頗る堅實なる

▲膨脹を遂げ之を各銀行[illegible]の狀況に徵すれば[illegible]前年に比し[illegible]出一千九百萬圓の[illegible]し朝鮮銀行券發行高は[illegible]

▲漸次回復[illegible]

▲前年に比し[illegible]出は三千萬圓[illegible]の增加を示せる[illegible]增進と取引の盛況を語るもの[illegible]ならずして京城に於ける金融の狀[illegible]

◎米大統領の講和條件 「ハウス」大佐に含めし意圖

米國新聞は報じて曰く「ハウス大佐の隨行員が巴里にて洩らしたる所に依れば米國大統領はハウス大佐の米國出發に際し左の意圖を含め巴里に派遣せり」と

有力なる米軍が西方戰場に集中するに至らば直接獨逸に告ぐるに今や獨逸は平和を承認すべき時機に達せり獨逸は白耳義及び侵略せる佛國領、塞爾比亞、羅馬尼「アルサス、ローレン」州を還付し且つ之に對する賠償を提出す可し而して四十八時間以內に回答する事若し此の要件に從はざれば米國は獨逸人及び歸化獨逸人の米國在留を禁じ且つ一千九百十四年八月より向ふ五十年間其入國を禁じ又獨逸人及び獨逸より運輸せらるゝ商品の賣買を米國內に於て禁ず可き事を以てせんと(華盛頓電報)

◎政務總監催宴

山縣政務總監は近く歸東すべき石塚東拓總裁を二十五日午後六時朝鮮ホテルに招待し晩餐會を開きたるが當夜は陪賓として本府各部長官、美濃部鮮銀總裁等列席したり

◎敍任辭令

夕刊所報の外二十一日附を以て左の通り敍任辭令ありたり

陞叙高等官三等(各通) [illegible]
陞叙高等官四等(各通) [illegible]
陞叙高等官五等(各通) [illegible]
陞叙高等官六等(各通) [illegible]
(以下夕刊に續く)

◎運送業組合計畫

鐵道に於ける貨物運送業者は鐵道の補助機關として誠實に命令を遵守し鐵道の補助に努め又委託者に對しては貨物取扱を丁寧にし且安全便速を圖り斯業の改良發達を期し併せて組合員相互の親睦と利益の增進を圖るを目的として京城運送業組合設立の計畫あり目下當局に對して右許可の出願中なりと

人事消息

[illegible]

百聞百種

世界の[illegible]を呼[illegible]れる二つの大金剛石の中[illegible]界では大戰以上の騷ぎである▲[illegible]

▲此の間の千葉の[illegible]選擧に[illegible]の應援を求はつた横山勝太郎君[illegible]ならぬ綽名を頂戴▲ぞさか▲其の由來は北條で催された應援演說會の際有りツ丈の非政府熱を掲げた後▲苟くも愛國の士は十二錢の鮮一個を儉約して六法全書一冊を買つて見よ▲と脫線し法律は六分通りは人民樣を無視したもの花族院令を見ても判る▲と猛烈な痛罵振りが露西亞の勞兵會連の演說に似て居たからだとサ▲野次の陸長三有名な名物男吉岡將軍の行動は實に神出鬼沒で何處に何をして居るか誰れも知らぬ▲過日ヒヨツクリ早大野球部の合宿を驚かして『何れ又ゆつくり來るよ』と云つて風の如く消ねた▲此夏滿洲で知人に逢つた時は『是から一寸露都に行きます何れゆつくり』で忽ち行衛不明▲處が七月頃ヒヨツクリ露都に現はれて今度歸朝した今村財務官を訪問して何れ又ゆつくりお目にかゝります」▲名物男だけ知人間の話題に上るが何人が何處で逢つても『何れゆつくり』の一語で總て行動不明▲愈々以て何をして居るかと此頃大分問題になつて居る相な

□支那も問談 輜較休徵

◎間島小包郵便

近來間島に入る小包郵便物は激增しあり[illegible]其は連續貨物の[illegible]かも遞著放擲勝ちなる運輸托送の失れに比し小包郵便の方安全敏速[illegible]

天覽台覽

嶺峰文選

明治大正年間の一大產物!

本書は國民新聞創刊二十五年記念出版にして[illegible]

發行所 京城 民友社
菊版クロース上製函入 總一千五百餘頁
定價金三圓五十錢
特價金二圓

▼賣捌所 京城日報社代理部

移轉

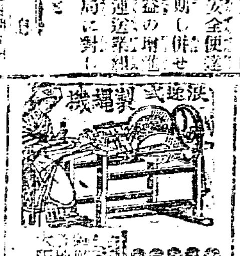
當事務所左記へ移轉仕候條此段謹告仕候
追而歲末歲首に際し一々御挨拶可申上の處移轉早々混雜中缺禮仕候間不惡御承引被下度候

京城府旭町一丁目六十二番地
藤山鑛業株式會社 朝鮮鑛業事務所 電話長一五二一番
所長 原田信

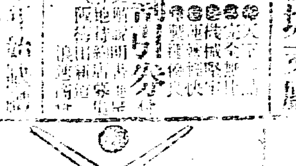
山田愛劍著
格言俚諺 日日の修養
愈々五十版
格言俚諺を引用する所の例話寓話 修養談
定價金九拾六錢

抓峰學人著
心學 人の道
忽第十二版
修身處世 趣味横溢 例話比譬
神尾光臣 題字
大島健一 題字
杉田定一 題字
輻島安正 題字
山田隆一 題字
忠誠堂

東京 池田十三郎



商業登記
京城地方法院開城支廳



新年玉突競技大會
自一月五日より八日迄
會費改元金三十錢均一
賞品本賞一等より十等迄 特別賞一等より五等迄
會場 京城旭町 大正町
大木初太郎

旅行中に付年末年始の御挨拶缺禮仕候
東京府下千歲村
杉山孝平

△使臣召還未し　露國政府は聯合諸國との盟約に背き既に獨墺側と休戰條約を締結し將に講和談判を開始せんとしつゝあり聯合諸國は其の態度に關しては…すべく講和事件の結果も未だ露國今後の成行も亦豫測し得ざるを以て雖種々の場合を豫想して聯合側は其の執るべき態度を考慮しつゝあるは推知するに難からず　露國の穩和派が過激派に對抗して莫斯科に遷都せんとの計畫あり而して此際聯合國使臣は莫斯科に移轉すべく現に帝國使臣も既に同市に…未だ聯合國民に對する排斥的傾向も無く且其の形勢を採知するには聯合國使臣の此際露都を去る能はざる事情もあれば差當り撤退する…

△貨物輸送禁止　露獨間に於ける休戰條約中兩國は互に情報の交換及び物品の輸送を行ふことを規定せり然も其規定たるや既に聯合國に對して軍需品並に一般の貨物は之を輸送せざる可らざる結果を生ずることゝなり殊に聯合艦の情報を過激派の手に歸して以來從來の如く充分に物貨を輸送し居らざる故此際如何にしても之が防止策として露國への輸送は勿論總ての關係通牒を中止せしむと想像せらるが確き大打撃は無かる…

冬宮乘取の一幕（二）
陰慘な暴動の日

不安に滿ちた夜が明けはなれると愈々過激派が臨時政府を倒す可く冬宮を包圍攻撃すべき日が來た。此日露都は陰慘な空氣に包まれて人々の心まで壓へつけられるやうな厭な日であつた。街々には衛戍兵が五六人づゝ篝火を焚いて警戒して居る、戸を閉めきつた街の人通りや電車は止つて居るが軍器や兵士を乘せた自動車はガラ〳〵と薄氣味惡い音を立てゝ駛る露都は今や

●不穩な戰雲なしに兵士どもが秘密を包んだ野獸さ

一ぱいに擴がつて今夜と言ふ今夜は魑魅魍魎のやうに暴れ廻つてやるぞと言つたやうな殺氣が漲つて居る、股野鮮銀司事は冬宮に近い宿屋に下宿して居つたが危險だからと言ふので早朝から他の郡かな川に移轉した、私はその手傳をして午後八時頃歸宅すべく家を出ると俄然闇を破つて五六發の銃聲が聞えたのでヤア始まつたぞと思ひながら駈出して

●何處かと門番に訊くと

『ネーフッスキー街の方だ』と答へる私は韋駄天の如くネーフッスキー街に駈着けて『何處だ』と尋ねると枯草廣場だと言ふ這度はネフッスキー街とサドワヤ街の角に出る米國領事館前を通り拔けてネフッスキー街とサドワヤ街の角に出るとそこには市民兵が五六人立つて居て『おい勸進鋼は捕縛されさうぢあないか』『いや妻君だ』『妻…

君！何番目の！』たゞ言つて…と笑つて居た、私は二の市民兵から歷山王第三世博物館…

●附近に過激派の兵士が…

いて直に駈つけると冬宮は既に罪理勢一揆の兵に圍まれて這入る事が出來ない、止む無くエルミタージュ博物館前の濠に沿うて一丁程前進するとそこには百數十人の兵士が伏せをしてゐた、そして私の姿を見つけると『おい支那人貴様は何しに來たか』と詰問したので『見に來た』と答へると『命が欲しくないか』『彈丸なんか恐くない見せて呉れ』『チヤ勝手に死ぬがよい』私は毛皮の外套に身を括んで土の上に腹這した

●飛行機の爆聲が…

な建物は魔物のやうに突立つてゐる鼻柱も落ちてしまひさうな寒い空にはサタンの眼のやうな星が輝いてゐる、底も知れぬネヴァ河の流れは生とし活るものゝ生命を吸ひ込むやうに流れてゐる、私は四邊の物象が物凄いまでに靜まり返つて居るのに戰慄か胴慄ひを催した暫くしてから隣の兵卒に向つて『オイ何の爲めに臨時政府を倒すのか』と尋ねると

●よく知らんが共産主義の…當だ

『臨時政府が倒れると土地を分配するさうぢあないかムム俺達は高慢チキな地主や威張り腐る工場主を追拂つて地主になるんだ』『共産主義つて何の事だい』『そりや貧乏人がなくなる事だ資本主が勞働者と一緒になつて機械に注油をしたり誰でも倶樂部で飽食つたり集合がいつも催ほせる事さ、共産主義つて有難いものさ』『皆ながさう考へてるのか』『當然さ』

●…

と五六間隔てた濠の向ふ側から突然一發發砲すると此方からも應戰して瞬く間に豆を炒るやうな銃聲が双方の陣地から響いて五六分すると熄む恁んな事が半時間毎位に冬宮の周圍で繰返される恰も中學校の發火演習位のもので戰爭と言ふ緊張した氣分がしない、私は…

●…

…擴がり始めたので一發大砲を發射した私も兵卒と一度肝を冷やして頭を大地に擦つけた一發又一發大地は崩るゝもと思はるゝ程に物凄くなつて來た（林阪正一手記）

冬宮近きネフスキー街（×印は米國領事館）

李王家御一門のお喜び
國分李王職次官の談

今回李王世子殿下小閣御任官の吉報を齎らして國分李王職次官は二十五日の午後二時五分に電報が落しましたから早速德壽宮德壽宮兩殿下は直に大皇陛下に御聽の傳奏方を總督に御依頼しましたが更に洵に御芽出度い事です。それはもう一昔になりますが王世子殿下が始めて内地に赴かれる時私も隨行して東京まで參りましたが、その時は王世子殿下も未だ御幼少であられました。それが先般我が東上した折拜謁しましたが全く御壯になつて中々御活潑であられました。本當に隔世の感があります…殿下に拜謁して今回王世子殿下の御任官に就ても言上しましたが…殿下は喜色滿面であらせられた…お喜ばれる事でせう

新酒が騰る
新酒は來年一、二月頃二圓乃至三圓五十錢方値上すと（大阪特電）

清涼飲料値上
清涼飲料水シトロン、サイダー等は四打入一箱に就き一圓五十錢値上を發表實行す（大阪特電）

哀れな天幕生活を營める小亞細亞地の避難民
駒木日進艦長の談

某方面より歸還せる特務艦として某方面出動中なりし日進は二十二日朝佐世保に歸港したり駒木艦長の談に曰く本艦の母港佐鶴を出動せるは

●昨年十二月にして氷點下四十度、艦側の結氷十二時に達せし極寒の地より、艦内百四十度、甲板上猶八九十度の熱帶地方を行動し、航海日數百八十五日航程四萬五千哩を航破し、時には傾斜五十三度と云ふ破天荒の荒天航海を冒し艦内に潮水浸入して深さ膝を沒するに至りし事さへあり。されど一同元氣にて却つて他艦の病者を收容して歸航せる程なり又本艦は某地にて小亞細亞地方の

●避難民を見たるが彼等は五千、六千一團となり其處彼所の駐屯軍所在地に天幕生活を營み居り糧食は粟と黍の麵麭や軍隊より給與する牛豚等の骨を割りて煮たる汁にて織物や編物等殆んど元始的の生活を營み居れるが、是等のみにては到底口を糊する能はざるを以て、宣敎師と慈善家の袋助に依り漸く

●露命を繼ぎ居れり。一天幕に男は百人内外にて而かも七十歳以上の老衰者と不具者とのみ他は悉く女と小供なり、一見亡國民に對する哀れを催さしむ、此方面在留の東洋人は總て日本人に好意を表し、本に就育ある者の如きは東洋勃興の好機を求め頻りに交際を求め、東洋勃興の好機は今の時を措いて何れの日にかあらん互ひに奮起せんなど

●慷慨激越の語る、消息不明の常陸丸は恐らく沈沒せるにはあらざるか、何れより見るも沈沒せりと信ぜらるべき理由なし、余は乘客船員共に生命に不安なしと信ず（佐世保）

神の榮光、地の平安、人は歡喜の大祭の夜
うれしい、うれしいクリスマス、父様、母様お目出度う

十二月廿五日夜、何處からともなく傳り來る教會の響に世を驚げて今宵をクリスマスの祝祭に集まらしめるかの樣、冷たい風の十二月の市街の石甃を鳴らして教會へ教會へと向ふ人々の歩みにも喜びが溢れてゐる、高く差し出て搖らいで居る冬木の梢を透いて輝く今宵の星を見返りながら人々は喜びの會堂に入る

○地には平安人にはめぐみあれ

と歌へる堂内の歡喜よ、平安よ。青赤のモールを打まはし美しい銀の星を白堊の壁に現した、京城基督教會では平民的に飾られたクリスマスの樹の傍側白布の壇上に可愛いゝ少年少女の開會の辭の歌にはじまつて喜びの會は進んでゆく、松本少年の開會の辭に歐洲戰爭を引用して『救世主降誕の日に主の全き教を祈らん』第一の手に入つた清い言葉など今宵の喜びを加へて信徒達のさんざめきな大きい喜びで有らう少女の歌、高い美しい彼布のひもに悦び溢るゝ小さい胸の鼓動嬉しきも今宵である會者三百を餘つただらう。

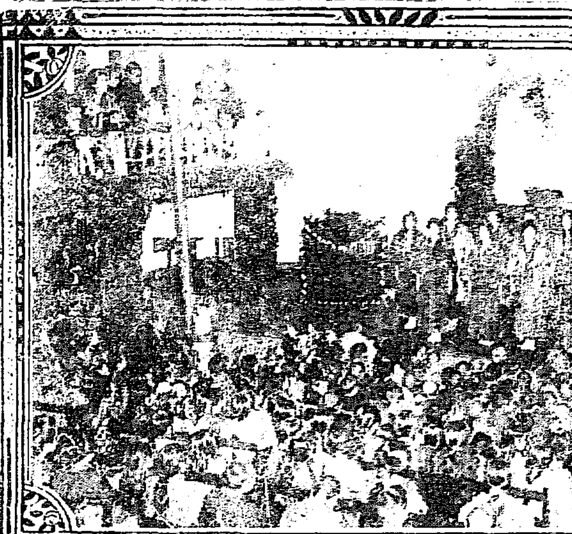
○うれしいうれしい

クリスマス、父様母様お目出度う！』廣大な堂内の壇に近い處の窓にこれも輝く大きな銀の星を象したる滿悲にして明るきメソ…

…の教會では、幼稚科生徒の合唱を見てゐた…堂内の灯は漸く明るく…積まれてゐる御褒美が小さい人々の手に渡る時會者五百餘名。

…の綾にすべての飾りを…讃美歌に顔ふ…は色鮮やかな…堂内は今宵の喜びを目覺むるやうにしてゐる。約り下された銀の星…の祝辭に…の歌、第一部は終る、本年内五十名の日曜學校に皆勤した生徒の胸に校長の手から賞牌が飾られて、少憩になつて第二部に移る。會衆五百名を除るだらう。かくて外面は凍風に寒いけれど、内には…

御惠みあるゝ父御子御たまを」の讃歌が愈々歡喜に歌はれてゐるの小隊に、救世軍京城小隊では…である。他に此聖祭は多數の會者によつて盛大に擧げられたのである（山）



日本基督教會の降誕祭

漂流中救はる
福岡縣人伊藤兵四郎外五名は二十一日釜山神加德島附近に出漁中風波の爲め船體破損し漂流し…二十三日午前六時頃他の漁船に救助されたり

南海電車衝突事件判決
南海電車衝突事件被告代理中武宮成和禁錮一年罰金…堀田助役に禁錮十箇月の判決言渡ありたり

元滿鐵總裁社宅の火災
元滿鐵總裁社宅なりし滿洲館は目下…

釜山の朝火事
損害三千餘圓

二十五日朝九時四十分釜山本町一丁目貸舖揚山口、猪股兩家の裏より出火倉庫家屋二戸に燃えつき…消防の手配迅速なりし爲め大事に至らず消し止めたり（大邱特電）

溫突の崩壞
京城…洞三百二十一番地飲食店樓上に住む…二十四日午後七時頃假然溫突十七間の内一間崩壞し…全壞せしも家人等は幸に避難したる爲め死傷なかりし原因は道路工事の爲め附近の河底を掘り下げたるより其の石垣に緩みを生じて遂に崩落するに至りしものゝ如く損害三百餘圓なりと

盜伐事件公判期
金鑛山盜伐事件として村田理學士外十一名の控訴公判は二十四日京城覆審法院にて第二回公判開廷の筈なりしが都合に依り延期となり何れ言渡しは多分來年一月中ならん

黑鉛百二十貫
本年八月十三日以降に前後八回に同郡邑内面川南洞生れ…鑛業所の黑鉛精煉所に忍び込み精煉黑鉛百二十貫を窃取したる朝鮮人四名の…其の都度四名の朝鮮人に密賣し其の…事發覺し…は此の程…川警察署に檢擧さる

二人乞食強盜
自稱京城生れ李順道（…）崔錫鳳は賭博窃盜の前科者なるが京城に於て服役放免後同伴して京城を出で平安南道咸鏡南道忠清南道慶尚北道地方を徘徊し生活に窮しては乞食となり大正五年には京畿道楊州郡に於て通行中の旅人を山中に縛して所持の金員六十圓餘を強奪し京城に歸り三箇月餘を酒食に耽り同年十月六日再び京城を出て慶北尚州郡秋風嶺に至る路上に於て通行人を引き倒して所持金七十六圓を強奪して京城に歸り三箇月餘を徒食し本年二月京城を出て京畿道江原道咸鏡南道の各地に於て強窃盜を働き居りしを襄陽警察の手に取押へられ咸興地方法院檢事局に送されたり

山梨郷友會新年宴會
京城山梨郷友會にては一月五日新年宴會を本町江戸川に於て催ほす由會員は役員まで年内に申込まれたしと

色白く肌アレを防ぎ素顔の美人となる
ホーカー液
一滴づゝ
□美容の効果□
色を白くし、キメを細かにし、アレを防ぎ、色艶を好くし、夏の日ヤケを完全に防ぎ、白粉下、トキ水によく、一般の皮膚を丈夫にし、生れつき色が白い樣に見せ、紳士の髭そり後に適す
定價　大瓶八十錢　中瓶四十錢　小瓶二十錢　送料内地無料
若し最寄の店に品切れの節は本舗宛直接振替又は三錢切手代用にて御注文を乞ふ
本舗　堀越嘉太郎商店　東京神田和泉橋　振替東京一五六番　電話神田特長一四三、一四四、一四五

恰好なる歳末年始の御贈答品

歳暮贈答品　北海荒巻鮭　本場みかん　なら漬樽詰　外に季節物各種取揃御用命願上候　京城旭町　川西商店　電話一三六六番

最新刊

人斜定石法

大阪屋號書店

京日案内
普通
番外
商品切手　御便利に賣買仕候　京城永樂町二丁目五番地　丸五商會　電話一四九八番
醫師雇入度し　村上病院
年金恩給　江州屋本店
恩給年金即時　山口屋
恩給年金立替　吉田屋
看護婦入用　京城醫院

KAZEPIRIN
カゼピリン

時計貴金屬指輪眼鏡商
勿驚破格大賣出し
一年間御禮の爲
三浦天詳堂

質　田村質店　黄金町二丁目　電話二九一六番

新荷著　懷中時計
インゲレッシー商會　本店京城本町二丁目　電話九七二番

胃　つぎこうじき治療　明治町ふらんす教會前　荒川仁壽堂　電話二五九五番

（明治三十九年八月十三日第三種郵便物認可）

櫻御殿

第百七回　編笠浪人（一）

大阪　霞の家主人

『酒を持て〳〵』

奥の間から叱るやうな鋭い聲が掛られた、磯に結つた竹垣の下に立つて、すぐ目の前に聳ゆる大阪城の天守を見て居たは、姿容の美はしい十八あまりの乙女であつた、房々とした髪を後へさげて、色の褪せた紛の打紐で結んだのが、いかにも氣高く情を銜んで見ゑた、生絹に花模を摺箔した袷衣を著て素足に緒の切れた長刀草履を穿いて居る

『はい』と云つて振り返つた目の中に、萩の花に欲しさうな露が宿つた

『酒を持て〳〵』

奥からは再び呼ぶ、その聲が段々と強くなつた

乙女は頬に傳ふ涙を、片手でそつと拭ひながら、頽れかけた枝折戸から裡面へ入つて、庭傳ひに奥の間へ行つた

一面の秋草が縁端近くまで亂れ繁つて、その下に蟋蟀が鳴き細る

乙女は砥石の上に立つて

『お召しでございますか』と恐る〳〵に云ふ、それをぐつと睨みつけて

『酒を持てといふが聞こゑんか』

と頭から噛みつける

年紀は四十二三であらう、身の丈六尺あまり、酒に微温る目の色が赤味を帶びて太い眉がぴり〳〵逞く、赤銅地の皮膚、馬の鬣を栽つたやうな胸毛、水色無地の木綿の袖をまくり上げて、朱塗の大盃を擧げて居る、前には昆布を乘せた三寶が据いて、蓋の脱れた銚子が淋しげに置かれてある

『はい』と乙女は腰を屈める

『これ、此の通りぢや』と銚子の底を叩いて見せて『少しも無い、一滴も無い』

『はい』

『はいでは分らぬ、酒屋へ行つて取つて參れ』

『はい』

『何を、〳〵、もう一升、いや二升、いつその事、五升ほど取つて參れさ』

『ではございますが、お鳥目がございませんでは、中々御酒をくれません、先刻一升無心したのが、容易の事ではございませんでした』

『馬鹿を云へ、斯樣に毎日貧亂して酒の用を命くれば、此の上も無い華主でないか、それに兎や角申し張らば、その分でさし置くまい、酒場の主を一刀に斬り捨てる』

『まあ、お父樣』

『風早利右衛門を何んと心得居る、が酒場を飲み倒す男でない、さう云ひ聞けて取つて參れ』

『わたくしもう酒場の敷居を跨ぐ面はございません、それに日も暮れて參ります、左樣にお喫り遊ばしては、お身體に障るかも分りませんゆゑ、今日は御納盃に遊ばすが好いぢやございませんか、明日はまたお父さまのお氣に入るほど取つて來てさし上げます』

乙女は噛すやうに云つた

『いや〳〵、酒の味はこれからぢや、和御寮強て参らずば、乃公が行つて求めて參る、何の二兩や三兩の酒代、一時も經てば取つて來るわさ』

利右衛門はよろ〳〵と起ち上る右手に朱鞘の一刀を取つて居た

『あれ、お父さま、そればかりはお止し下さいまし、わたくし恐しくて仕樣ございません〳〵、お父さま〳〵』

乙女は驅け上つて縋り付いた

『なにさ、心配するなさ、斬取強盗は武士の習ひぢや、これさへあれば』と落し側にした一刀の柄を叩いて『金銀は無盡藏ぢや、放せ』

▲お歳暮贈答品は何がよいと思案召さるな!!

砂糖　五斤入　七斤入　十斤入　廿斤入

其外好適品各種取揃有之候

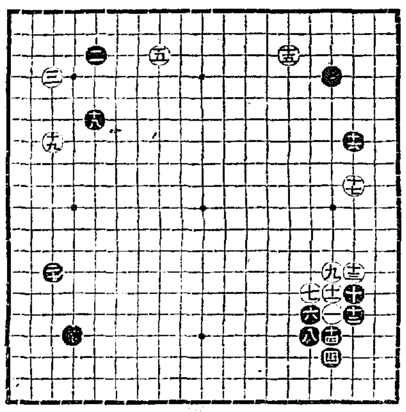
本町二丁目（電話二七〇九番）　千利堂菓子舖

碁戰

第三局　十一番　一の手

三段　山平壽氏　二子　大久保雅彥氏

白二の五十五（一）より黒レの三十二（十二）手迄



▲前回譜評中のい印は譜中カの十三に附すべきを脫落せり

日報歌壇

『陽にとけ』　みね子

待ち侘ぶと今日も交して淋しさの雨をきいつゝ暮るゝ冬の夜

暮々と闇の一羽抽の木の夕日の梢に喩かす久しし

人知らずみづから宿さこの心この心もて居れば安しも

霜ばしらうら〳〵陽にとけ果する光り見ゐつゝ君待つわれは

さやかなる月の眞下に光るもの屋上の雪ばらりなりけり

『土の野の人』

いつも來ていつも物思ふ岡の上今日はしきりに風吹けるかも

ゆきさ今つ沈まん夕陽を淋しみ丘に立てみなりけり

この夕べ岡にい立てばわが犬もさびしきものか身動きもせず

本田素月

ひとすぢに我つけて來し足あとをふり返り見て涙こぼしぬ

寂しむ家に歸りて涙ぐみ涙ぐみつゝ燈を解きけり

うす曇る空に見ゐてし屋のごと窓をはのに見ゐてけるかも

牛乳　衛生　滋養　病院　ホテル　御用

岡野牧場　京城東四軒町　電話一〇六九番

新刊紹介

◎ノーブル式輕便謄寫版　東京下谷上野一丁目ノーブル商會發賣の新用ノーブル式輕便謄寫版は印刷の鮮明使用簡易價格低廉の三要素を以て鳴りたる好評が今回年末の必要期に際して從來の割引を報ゆるため特に奉書版一四五十錢〔illegible〕

◎名人レコード賀出し　日本蓄音器商會に〔illegible〕

▲新案民謡引一千題（〔illegible〕）〔illegible〕十錢東京〔illegible〕

▲禁酒美談（〔illegible〕）〔illegible〕

▲北國之農民（〔illegible〕）〔illegible〕

▲日本之關門（〔illegible〕）〔illegible〕

▲電氣界（一二）二十錢大阪北區若松町　電氣界社

▲週（一ノ三）十錢東京神田錦町三ノ四　週報社

無病長壽を希ふ人よ

然して津村兄弟商會の

人蔘エキスを

知らざる人あらば人蔘エキスに親しまる方に一生健全也

東京日本橋〔illegible〕　津村兄弟商會

岡本米藏　牛　三版　價一〇〇　郵稅〔illegible〕

同　商工界の七十日　十三版　價一五〇　郵稅〔illegible〕

同　修學行商日記　二版　價三五　郵稅六

同　組育市內外の地所　二版　價九〇　郵稅六

京城太平通壹丁目　京城日報代理部　電話長六六〇　振替口座京城一三〇番

寫眞　寫眞出張撮影　寫眞銅版・亞鉛版　最も熟練せる技術者を以て〔illegible〕　京城日報社寫眞製版部

大阪期米　二十五日後場〔illegible〕

仁川米豆取引所〔illegible〕

壹千反限り

高貴織

正金代用金指輪進呈

〔illegible〕東京日本橋區本石町一丁目〔illegible〕

軍隊毛布

〔illegible〕ロシア軍隊〔illegible〕

東京神田　東京織物仲繼店　振替東京七三四六番

百圓進呈

りん病　ばい毒

帝國醫科大學病院〔illegible〕

にせ物に御注意

大阪有田ドラッグ商會

京城南大門外停留場通　大阪有田ドラッグ商會滿鮮本部

京城黄金町三丁目　大阪有田ドラッグ商會

釜山大廳町二丁目　大阪有田ドラッグ商會

元山本町三丁目　大阪有田ドラッグ商會

他の藥店に販賣を不許

京城南大門外停車場通　大阪ドラッグ商會

陸軍拂下

寒帶衣袴下靴下手袋被服一切　並に官品諸拂下品防寒品

京城府漢江通〔illegible〕　佐藤古着店

Scientific Research Made

MITSUWA GINSENG TABLETS.　100 tablets ¥ .50　500 tablets ¥ 2.00

This remedy feeds vitality to the strained and careworn nerves and dispels the brain fag. It is efficacious for anaemia, inanition, hysteria, hypochonderia, energy-decline and is especially good for kidney troubles. Not only improves the muscular tone and invigorates the nerves, but it also excellent for the means of recovering vigor to persons of weak constitution who are flabby and incapable of continued exertions.

人蔘を科學的に研究して之を錠劑とさせる

◎ミツワ人蔘錠

主效　神經衰弱、ヒステリー、ヒポコンデリー、頭痛、偏頭痛、貧血、腦貧血、腦充血、腎臟炎、貧血、老衰、營養不良、精力減退

◎ミツワ人蔘錠適應諸症候

一、頭が重く頭内が陰鬱とする人
一、眼の疲れ易い人
一、逆上せて逆上となる人
一、眠らうとしても眠れぬ人
一、疲れて悶い夢を見る人
一、些細の事を氣に懸ける人
一、何事にも怒り易い人
一、悲しい事も無いのに泣きたい人
一、精神の苛々する人
一、何事も悲觀して厭世的になる人
一、物事を深く考へることの出來ぬ人
一、物事の理非判斷の出來ぬ人
一、物事の記憶の不良い人
一、注意力〔illegible〕出來ぬ人
一、神經衰弱に罹つて居る人
一、血の道に罹つて居る人
一、陰慾や遺精で悲觀する人
一、腎臟病に苦しむ人
一、産前産後又病後の衰弱を防ぎたい人
一、勉學をして直に疲れる人
一、勞働をして疲れ易い人
一、精神の疲勞を早く治したい人
一、精神の疲勞を速に恢復したい人
一、精力を強くしたい人
一、手足の冷える人
一、未だ腦のある人
一、年齢の割に老い人
一、筋肉の萎縮んで居る人
一、皮膚の弛むで居る人
一、顏色の蒼褪めて居る人
一、頭痛に惱む人
一、腦神經痛に苦しむ人
一、時々氣を失ふ人
一、元氣良く活動したい人
一、延命長壽を願ふ人

定價　百錠入金五十錢　五百錠入金二圓　內地以外は郵稅運賃を加ふ

發賣品目錄御申越次第送呈

ミツワ石鹼本舖　東京日本橋區橘町　丸見屋商店

MITSUWA YUKINO SHIZUKU.

(Eau de neige)

Skin tonic, strengthening and beautifying the skin. Mitsuwa Yukino Shizuku 〔illegible〕 is of supreme value in the care of the skin. It cleanses the pores, brings the blood to the surface, stimulates the small, muscular fibres and preserves the tender, delicate skin. If Mitsuwa Yukino Shizuku is applied every day, the skin will not be harmed by the sun and the complexion will be bettered.

Price ¥ .30

肌膚を柔軟にし色艶を麗しくする芳香健膚藥

◎ミツワ雪の雫

主效　皮膚を強健清潔ならしめ、皮膚乾燥、皮膚剝脱、皮膚龜裂、皮膚皸裂、凍傷、火傷、乳嘴の小傷、擦過傷、雀卵斑、脂漏、汗疱、毛瘡、濕疹、鮮膚疹、斑雀斑、苔蘚、鮮白に奏効す

本劑は芳香馥郁たる健膚藥で、日常之を用ふれば、其の發育を助へ、隨つて腐敗を防ぎ、臭氣を消し、肌膚に居る黴菌を殺し〔illegible〕

▲肌膚を柔軟に滑潤ならしめ、肌膚から出る脂肪を除いて清潔になし、肌膚を緊縮めて〔illegible〕肌理を細かにし、肌膚の血行を良くして其の色澤を麗しくし、皮脂や汗の過剰に出るのを制限し〔illegible〕

▲肌膚の乾燥を防ぎ、黴菌や毒物の入込むのを阻め、肌膚の新しく出來ることを促すから〔illegible〕

▲肌膚を整へる藥劑〔illegible〕

定價　金參拾錢　內地以外は郵稅運賃を加ふ

株式會社大阪商船仁川出帆廣告

木浦、神戶、大阪行　濟州丸　十二月廿七日午前五時出

木浦、釜山、嚴原、郷ノ浦、長崎行　安東丸　十二月廿六日正午出

大連行　安東丸　一月八日午後二時出

安東丸　一月四日正午出

元山出帆

西湖津、新浦、城津、清津行　安平丸　十二月〔illegible〕日後十一時出

釜山、門司、宇品、神戶、大阪行　宮島丸　十二月廿九日後九時出

大連出帆

上海、基隆、打狗行　湖北丸　十二月卅一日前六時出　基隆丸　一月十三日午後四時出

內地各港出帆主要航路

南米行　每月一回　北米行　每月二回　濠洲行　每月二回　南洋行　每月一回

大阪商船株式會社仁川支店

日本郵船仁川出帆

大連行、秦皇島行　相模丸　一月一日　竹島丸　十二月廿九日　淡路丸　〔illegible〕

織居自動車部　金泉支部

開自動車著發時刻

朝鮮郵船　〔illegible〕

片山質店　業務親切　倉庫完全　勸業貯蓄債劵高價買入　明治町二丁目

ちち

東亞牧場　牛乳　ニツソ

オノエ　山

釜山出帆廣告

尼崎汽船仁川出帆

共同汽船仁川出帆